# ２０２２年度を振り返って

公益社団法人ひびき青年会議所
第５１代理事長　今住　一童

理事長として、１年間を振り返るにあたり専務理事を始め役員の皆様、そしてひびき青年会議所を支えていただいた全メンバーに、まずは感謝を申し上げます。
不安定な社会情勢の中でも、力強くひびき青年会議所を牽引していただいた第５０代梅田理事長からのバトンを引き継ぎ、５１年目という新たなスタートを希望に満ちた未来に向かいたいという想いから「Ｓｔａｒｔ　ｕｐ～希望を持って未来に進む～」というスローガンを掲げさせていただきました。在籍年数の低下やJC経験の少ないメンバーが多い中で、理事長として何を伝えられるのか？これからのひびき青年会議所を担う人財を育成することができるのか？人財の育成こそが未来への希望だと考えこの１年間を過ごしてきました。
新型コロナウィルスの影響も落ち着くと思われた年始のスタートではありましたが、新年早々に新型コロナウィルスの影響で２か月間の活動休止という事態を招いてしまい、会のトップである理事長の判断ミスを痛感させられ多くのメンバーにご迷惑をお掛けしてしまいました。そんな状況下でも、ZOOM会議を何度も重ね再開に向けてご協力いただいた役員の皆様の姿には頼もしく、再開に向けて御理解をいただいたメンバーの皆様には感謝しかありませんでした。そんな１年のスタートではありましたが、振り返ってみると全ての事業をリアル開催することができ、昨年までの状況とは違い多くのJC運動を展開することができた１年間でありました。子どもたち30名を連れて英彦山を登った青少年事業、ひびきエリアの魅力を再発見させてくれた地域開発事業、多くの地域住民を巻き込んで開催したなみかけ観光ジョギング、全ての対外事業を開催することができたのも、委員長の皆様が一つ一つの事業を一生懸命に作り上げてくれたからだと感じます。
２０２１年に創立５０周年を迎えたひびき青年会議所は、新型コロナウィルス感染拡大の影響を鑑み、記念式典を１年間延期し昨年開催することができました。５０年という長きに渡り先輩諸兄が紡いでこられた歴史を、絶やすことなくこれからの世代に引き継いでいく、理事長としての最も大切な仕事である過去と未来の橋渡しを５１年目という節目の時代に携われ、皆様の成長を身近に感じ取れたことは嬉しくもあり私の一生の財産となりました。「苦しい時代だからこそJCをやる価値がある」昔、先輩からよく言われていた言葉が理事長をさせてもらう中で身をもって感じることができました。未だかつて誰も経験したことのない世界的なパンデミックの中で、自分のことだけでも大変な時期に、メンバーや地域のことを考え活動を続けてくれた多くの仲間に支えられ、理事長を全うすることができました。この１年を支えて下さった全ての皆様に感謝を申し上げ第５１代理事長としての御礼とご報告に代えさせていただきます。１年間本当にありがとうございました。

# ２０２２年度　事務局

**１．基本方針**

ＪＣＩひびきは、２０２０年度に３９名と既存会員数よりも多い新入会員の入会があり、より正しい情報を早く伝達する力、会議の精度を高め無駄を無くす力、ＪＣの魅力を感じ発信する力が求められます。会員数が増えたことによって、限られた人数で行ってきたＬＯＭの運営体制を継続するのではなく、よりＬＯＭの役割を細分化して、委員会メンバーが密に関わり合いながら、同じベクトルを向き、柔軟な組織運営を行う必要があります。

まずは、事務局運営を円滑に行うために、メンバーと事務局の役割を共有し年間を通じたＬＯＭの活動状況をこまめに報告することで、事務局全員が一丸となり取り組みます。そして、会の根幹である理事会をスムーズに進行するために、予算会議でのコンプライアンスに関する意識付け、資料の事前配信の徹底をすることで、会議の精度の向上と会議時間の短縮に努めます。さらに、各種大会の受付窓口として多くのメンバーに参加してもらうために、各種大会の背景、目的を理解し、その魅力を参加者の体験談を基にわかりやすくメンバーに伝え続けることで、参加意識を高めます。また、ＪＣ内だけではなくより深い関係を構築するために、慶弔の項目を周知させ、例会にて皆で個人の慶弔を共有することで、悲喜を分かち合います。そして、理事長のセクレタリーとして理事長がＪＣ活動に専念できるようにするために、専務理事と常に連携を取り自分の役割を明確にすることで、タイムリーにその役割を全うします。さらに、対外に対して恥ずかしくない共有施設の使用管理を行うために、施設のルール、マナーを発信し、メンバーの資質向上に努めます。

その結果、事務局メンバーは新型コロナウイルス感染症や様々な予測不能な困難が立ちはばかろうとも、一人ひとりがＪＡＹＣＥＥとして強い自覚を持ち、自らを律し、他のメンバーの見本となる積極的な活動意欲を持った人材となり、持続可能な地域を実現します。

**１．事業別内容（方法・手段・評価・反省）**

（１）予算会議での予算・著作権・コンプライアンスに関する事項

（方法・手段）

予算会議でのコンプライアンスに関する意識付け、資料の事前配信の徹底をすることで、会議の精度の向上と会議時間の短縮に努めます。

（評価・反省）

コンプライアンスチェックシートを作成し、委員長にコンプライアンスについて認識は持っていただくことができた点は評価できますが、予算会議での指摘ができておらずシートの活用を定着させるまでには至らなかったことが反省点です。

（２）各種大会に関わる受付窓口・参加に関する事項

（方法・手段）

各種大会の背景、目的を理解し、その魅力を参加者の体験談を基にわかりやすくメンバー

に伝え続けることで、参加意識を高めます。
（評価・反省）
窓口として、宿泊、交通の予約などをとりまとめ、自ら参加することで各種大会について理解を深めることはできました。しかし、単発での動員やお声かけとなり、メンバーの参画意識の向上までは至らなかった点が反省点です。

（３）慶弔に関する事項
（方法・手段）
慶弔の項目を周知させ、例会にて皆で個人の慶弔を共有することで、悲喜を分かち合います。
（評価・反省）
例会にて慶弔の資料を作成し、年初の例会にて発信した点は評価できますが、年間を通じて新入会員などに改めて案内をすることがなく、周知できなかった点が反省点です。

（４）理事長セクレタリーに関する事項
（方法・手段）
専務理事と常に連携を取り自分の役割を明確にすることで、タイムリーにその役割を全うします。
（評価・反省）
専務理事とこまめに連携を取り、各種大会に出席し、理事長のサポートを行った点は評価できますが、社業の時間の調整ができず、参加できる大会が限られたため、すべての事業に対してセクレタリーできなかった点が反省点です。

（５）共有施設の維持管理に関する事項
（方法・手段）
施設のルール、マナーを発信し、メンバーの資質向上に努めます。
（評価・反省）
理事会の会場や例会などの会場使用の際には、率先して片付けや、ルールを順守しメンバーに意識づけを行うことができましたが、事務局の片付けに関しては私の発信不足もあり各委員長に役割分担したものの、しっかり実施されたか確認ができていないままとなったことが反省点です。

（６）出向に関する事項
（方法・手段）
　多くの出向先があることをメンバーに伝え、出向に関しての興味を持ってもらいます。
（評価・反省）
ブロックの事業に参加し、私自身ＪＣＩひびき以外の活動を見ることができた点ではプラスとなりましたが、委員会メンバーがおらず興味を持ってもらうことができませんでした。

（７）会員拡大に関する事項
（方法・手段）
専務グループ内で情報共有し、会員拡大に努めます。
（評価・反省）
例会などで、オブザーバーと接触し、ＪＣのよさをお伝えした点は評価できますが、日々の拡大活動ができておらず自ら会員拡大につなげる活動ができていませんでした。

（８）その他事務局に関する事項
（方法・手段）
迅速に対応します。
（評価・反省）
年初に決めたコンプライアンスシートや、事務局使用マニュアルなどルール作成をした点は評価できますが、そのルールが定着できず終わってしまった点は反省点です。

**２．総評**
当初予定していたメンバーが入らない問題もありましたが、そのことを考慮しても全体的に中途半端な活動内容となりました。特にセクレタリーに関しては私の時間の工面だけでは対応ができないため、メンバーと協力して行う必要があると感じました。各種大会や慶弔等、メンバーへの意識付けを行う役目が主でしたが、例会や理事会などで全体発信ができていなかった点も改める必要があると感じました。コンプライアンスに関してはシートを作成しただけとなり、もっと委員長が活用できるように工夫する必要がありました。

３．担当常任理事所見
初めての理事で、事務局長という難しい役職を引き受けていただき、専務理事の支えとして１年間職務をまっとうしてくれました。議案という議案はなかったものの、１年間専務理事と連絡を密にしたことは、今後の活動においてよい経験になったと思います。上手く行かなかったことも多々あると思いますが、１年間の経験を、今後のＪＣＩひびきでの活動に活かし、中心として活躍していくことを期待しています。

**４．次年度への引継ぎ事項**
（１）予算会議での予算・著作権・コンプライアンスに関する事項
・今年度は事務局でコンプライアンスシートを作成し添付してもらいましたが、年の初めにコンプライアンスシートの作成に関して各委員長に指導し、各委員長が作成できるように指導したほうがよいと思います。作成の中で委員長がコンプライアンスに対しての意識が高まると思います。

（２）各種大会に関わる受付窓口・参加に関する事項
・各種大会のホテル、飛行機、食事処の予約に関しては、開催日が近づくにつれて予約が

かなり困難になります。予定人数分だけでも早い段階で予約し、何日前までのキャンセルができるか確認してください。

（３）慶弔に関する事項
・今年度は１１月の例会時にそれまでの対象者に慶弔金を支給することになりましたが、随時対象者に対して支給できるように、慶弔の対象者がいないか確認してください。

（４）理事長セクレタリーに関する事項
・北九州市内はもちろん福岡市の方や県外へのセクレタリーを求められることもあるため、事前に、どういった事業にどこに行かなければならないか専務理事に確認を取り、メンバーと連携し、メンバーの誰かが理事長をアテンドできるように段取りしてください。また、万が一誰も行けないケースでも他のメンバーに依頼し、理事長が事業に集中できるようにしてください。

（５）共有施設の維持管理に関する事項
・様々な施設を使用しますので、事務局のメンバーが率先して片付けを行い、他のメンバーに施設利用の見本となる動きをし、他のメンバーにも声掛けをし、皆で行うよう働きかけてください。

（６）出向に関する事項
・出向に関して、事務局メンバーに情報を提供し、出向してもらうよう働きかけ、出向者が出た際は事務局全体で情報共有しフォローできる体制を作ってください。

（７）会員拡大に関する事項
・委員会で随時ＪＣに興味のある方はいないかヒアリングし、事務局内で会員拡大の意識を常に持つ環境を作ってください。

（８）その他事務局に関する事項
・コンプライアンスシートの活用や、ごみの片付けの持ち回りや、事務局の使用チェックシート等、ルールが定着するまでメンバーにはその都度声掛けを行い、しっかりルールが定着しているか追いかけを行う必要があります。

**５．実施組織**

事務局長　藤森　宏明

# ２０２２年度　総務委員会

**～基本方針～**

ＪＣＩひびきは、創立から５０周年という大きな節目を迎え、これまでの諸先輩方の功績を学び、受け継がれてきた熱い想いを受け継いで、永続的な組織運営をしていかなければなりません。新型コロナウイルス感染症の再拡大や予期せぬ出来事が起こったとしても、これまでどおり変わらず運営していき、会の根幹を担う総務グループの一員として、柔軟かつ適正な組織運営に寄与するとともに、ＬＯＭメンバーの模範となる必要があります。

まずは、厳粛且つ公正な総会および選考委員会選挙を運営するために、総務委員会全員が会の必要性を理解し、ＬＯＭメンバー全員に発信することで多くのメンバーを巻き込んだ会の運営に寄与します。そして、質の高い理事会にするために、こまめに各委員長と連携をとり、議案の作成状況を把握し、正確に誤字や文章の整合性を指摘することで、理事会の時間短縮に努めます。さらに、議事録の早期配信のため、委員会内の役割を決め効率よく取り組むことで委員長たちの議案作成の一助になります。また、メンバーのＪＣ活動への意欲を高めてもらうため、総務委員会皆で褒賞の選定理由を理解し、ＬＯＭメンバーに発信することで、全体の意欲増強につながります。そして、出向や各種大会に多くのメンバーを動員するために、出向や各種大会の魅力を総務委員会全員が理解し、具体的にＬＯＭメンバーに伝えていくことで参画意識を高めます。さらに、積極的にＪＣ活動に取り組むメンバーを増やしていくために、委員会全体でどんなことにも挑戦し、ＪＡＹＣＥＥとして成長する姿を周りの人に示すことで、ＪＣＩひびきの素晴らしさを伝えていきます。

我々総務委員会がＪＡＹＣＥＥとして自覚と誇りを持ち、メンバー全員の見本となりＪＡＹＣＥＥとしての在るべき姿を発信し続け、ＬＯＭメンバー一人ひとりの資質向上に繋げ、予測不能な状況下においても適切な委員会運営に努め、持続可能な地域を実現します。

**１．事業別内容（方法・手段・評価・反省）**

（１）総会の開催に関する事項

（方法・手段）

総務委員会全員が会の必要性を理解し、ＬＯＭメンバー全員に発信することで多くのメンバーを巻き込んだ会の運営に寄与します。

（評価・反省）

総会という会議がＪＣＩひびきにとってどのような意味合いがあるのかということを伝えることはできませんでした。新入会員の中には総会に参加していただいた後に、何のための総会だったのか分かり辛かったなどのお声をいただくこともあり、会全体へ周知徹底できたとは言えない結果だと反省しております。しかし事前の配信や案内した甲斐があり服装に関してや会の厳粛性の理解はわかっていただけたと思います。

（２）選考委員会選挙の開催に関する事項

（方法・手段）
総務委員会全員が会の必要性を理解し、ＬＯＭメンバー全員に発信することで多くのメンバーを巻き込んだ会の運営に寄与します。
（評価・反省）
動員時に総会の意義などを口頭で伝えることやＦＡＸ案内文にＪＣＩひびきにとって重要な会議であるという記載をすることなど行いましたが、それら以外にも会の大切さを伝える術があったのではないかと反省いたします。しかし投票の際は委員会ごとに投票場に向かい皆様のおかげもありスムーズに投票する事ができました。

（３）予算会議での誤字脱字に関する事項
（方法・手段）
正確に誤字や文章の整合性を指摘することで、理事会の時間短縮に努めます。
（評価・反省）
竹内専務理事、川口財務担当常任理事と予算会議を１年間行ってまいりました。通常理事会前に予算会議を三者にて行い、誤字脱字の修正依頼をしてきたことは評価できると考えております。しかし、通常理事会などで予算会議の精度を問われる場面もありました。これらご指摘をいただいたことからも、予算会議の目的を達成したとは言い難いと反省しております。僕自身誤字脱字を見つけることがしっかりできませんでしたが専務グループ一丸となって予算会議に取り組むことはできました。

（４）議事録作成の作成及び運営に関する事項
（方法・手段）
議事録の早期配信のため、委員会内の役割を決め効率よく取り組むことで委員長たちの議案作成の一助になります。
（評価・反省）
議事録のフォーマットを毎回会議に向けて準備をし、音声データと資料を総務委員会メンバーに役割分担することができず、年間を通してほぼ毎回議事録を期日どおりに監事の方達に確認の配信することができませんでした。しかし議事録はこと細かく残すことはできました。

（５）各種会議運営に関する事項
（方法・手段）
こまめに各委員長と連携をとり、議案の作成状況を把握し、正確に誤字や文章の整合性を指摘することで、理事会の時間短縮に努めます。
（評価・反省）
式次第配信においては、議案提出者、資料提出者への催促を行いながら暫定版の配信、最終版の配信を行ってまいりました。会議において最終的に配信が遅れてしまい、２日前配信を行うことのできない場面や添付資料が最新情報ではなく、不備のある式次第を配信し

てしまった場面があり、反省点が残ります。しかし会の設営など毎回時間どおり行うことはできました。

（６）褒賞に関する事項
（方法・手段）
メンバーのＪＣ活動への意欲を高めてもらうため、総務委員会皆で褒賞の選定理由を理解し、ＬＯＭメンバーに発信することで、全体の意欲増強につながります。
（評価・反省）
褒賞においては、事前に各委員長に案内をしていたのでプレゼントの用意もあり、賞状や賞状を入れる筒などの準備のおかげでスムーズに終わらせることができました。しかし褒賞の進行の際の資料を用意しておらず迷惑をかけてしまったのが反省点として残りました。

（７）出向に関する事項
（方法・手段）
出向や各種大会に多くのメンバーを動員するために、出向や各種大会の魅力を総務委員会全員が理解し、具体的にＬＯＭメンバーに伝えていくことで参画意識を高めます。
（評価・反省）
総務委員会からはアカデミーへの出向者はいませんでした。委員長もアカデミーに関する事業に参加することがあまりなく、アカデミーなどの各種大会などにも積極的に参加できなかった所が大きな反省点とします。しかし出向しているメンバーから色々な話を聞き出向のよさを理解することはできました。

（８）各種大会への参加に関する事項
（方法・手段）
出向や各種大会に多くのメンバーを動員するために、出向や各種大会の魅力を総務委員会全員が理解し、具体的にＬＯＭメンバーに伝えていくことで参画意識を高めます。
（評価・反省）
各種大会には積極的に総務委員会は参加することができませんでした。情報共有は専務理事発信内容を委員会内にて共有することはできましたが、メンバーへの参加の促しをしっかりできたとは評価できず、反省点として残ります。しかし各種大会には積極的に参加することはでき、人とのつながりを目の当たりにすることができました。

（９）会員拡大に関する事項
（方法・手段）
積極的にＪＣ活動に取り組むメンバーを増やしていくために、委員会全体でどんなことにも挑戦し、ＪＡＹＣＥＥとして成長する姿を周りの人に示すことで、ＪＣＩひびきの素晴らしさを伝えていきます。

（評価・反省）
総務委員会からはオブザーバー候補者及び新規入会者を出すことはできませんでした。総務委員会内でオブザーバー候補者を募るなどの議題を出すことをしなかったなど、新入会員拡大に関するアクションを起こしていないことや、それらの情報を会全体に周知するに至るアクションを起こしていない点は大きな反省点であると考えております。しかしＪＣに興味がある人には積極的に話をすることを行い拡大委員長に伝えました。

（１０）その他総務に関する事項
（方法・手段）
厳粛且つ公正な総会および選考委員会選挙を運営するために、総務委員会全員が会の必要性を理解し、ＬＯＭメンバー全員に発信することで多くのメンバーを巻き込んだ会の運営に寄与します。
（評価・反省）
委員会内での交流等の回数が少なかったことで一部メンバーとの連絡が取れなくなってしまい、もう少し連絡をしっかりと取っていればこの様な事態にはなっていなかった可能性もあるのでそういった所が反省点として残ります。しかし理事会や総会などの設営は時間前に集まりスムーズに行う事ができたと思います。

**２．総評**

１年間を通して、後悔が残る１年となりましたが総務委員会の責務をまっとうすることはできたと思います。総務委員会はメンバーの模範となる役目ですが、理事会での式次第の不備であったり、誤字脱字なども多くみられ、とても模範とはなれませんでした。当初の総務委員会よりはやるべきことも少なかったのに自分自身不甲斐ない結果となり後悔が残ります。委員会活動も、副委員長をはじめ委員会メンバーを巻き込むこともできず、そのために総会などの進行もスムーズにはいかない場面がありメンバーを巻き込むことの重要性が身に染みて感じました。当初掲げていたメンバーの見本となり全メンバーの資質向上にも繋げるという目標は達成できなかったと思いますが自分自身の成長にはつながったと思います。

**３．担当常任理事所見**

初めての委員長で予定者の段階では、不安でいっぱいの様子でした。総務委員会は総会や選考委員会選挙、会議資料の作成など、内部的でモチベーションも保ちにくかったと思いますが、様々な話をする中で、内容を理解しようとする姿、真摯に議案に向き合う姿は、ＪＣＩひびきの総務委員長に相応しいものでした。上手く行かず、反省している姿を見る場面もありましたが、自身の基本方針の達成に向け１年間取り組んで、大きく成長したと確信しています。今年度委員長の職をまっとうしたことは大きな自信とし、この経験を今後のＪＣ活動に存分に発揮し、ＪＣＩひびきの中心として活躍してくださることを期待しています。

**４．次年度への引継ぎ事項**

（１）総会の開催に関する事項

・総会の際にあらかじめ委員会メンバーの役割を決めておき、メンバーがこないと設営の人数も足らず、総会の進行もうまくいかない事を伝えるなどして積極的に皆が参加してくれる工夫をして下さい。総会の際には番号札や委任状の確認をしておき、あらかじめ札や表を作って臨んでください。委任状の回収は早めに行動し、返信が無い場合は直接連絡をして下さい。

（２）選考委員会選挙の開催に関する事項

・総会や選考委員会選挙はメンバーにとって大変重要な会議であるのですが、開催する意味や意義をどれだけ浸透させることができるのかということが大きな問題と感じました。総会や選挙に向けて動員を行うと思いますが、前月の例会や会員が集まる際に、総務委員長や総務委員会メンバーが委員会報告などの時間を使用して、総会の意義や選挙を行う理由、目的などを説明する機会を設けることで、周知につなげる事ができると思います。選考委員会の投票の際にメンバーが見る候補者プロフィールを、あいうえお順だと新入会員は分からない人ばかりなので上から順に書く傾向になると思いますので公平性が保てるように工夫をして作って下さい。

（３）予算会議での誤字脱字に関する事項

・誤字脱字のチェックを２０２２年度は３名（専務理事、財務担当常任理事、総務委員長）で行いましたが精度を問われるケースもありました。特に青少年事業や地域事業の議案が始まり出すと、情報量が非常に多くなり、一つの議案に対して目を通していくだけでもかなりの時間を要しますので、すでに予算会議をクリアしている箇所についてはチェック済みであることが分かるように工夫をするなどをして、全体をしっかりと見ていけるようにしてください。それから予算会議をスムーズに進めるためにも統一語句しっかり覚え、事前に目を通せるように各委員長に議案の早めの配信を促して予算会議に臨んで下さい。

（４）議事録作成に関する事項

・２０２２年度の総務委員会では会議の音声を分割し、振り分けを行って議事録を作成しました。総務委員長が最終チェックを行い、理事長、監事、署名人に資料を配信し、指摘箇所を修正する流れで行いました。この際、理事長や監事、署名人に議事録を配信するタイミングが遅すぎると２５日の通常理事会に間に合わない可能性が出てきますので、通常理事会終了後、速やかに議事録作成に臨み、分割した音声データをメンバーへ振り分けを行って下さい。

（５）各種会議運営に関する事項

・正確な資料が準備されているということは会議の質を高める大変重要な事項であると痛感しました。２日前配信されることにより、事前に各理事・監事、直前理事長などが資料を確認することができます。疑問点や質問内容を考えておくことができることは会議を

スムーズかつ有意義な内容とすることにつながります。各委員長に議案を期限通りに提出していただくことをコントロールできるよう、総務委員長は逐一各委員長に議案の提出催促をする必要があります。さらに、担当理事が各委員会の議案にしっかり目を通したうえで総務委員会に提出されているかどうかのチェックも適宜行ってください。それと式次第を作る際は上程スケジュールを確認し時系列での作成を行ない、不備がないかをしっかりと目を通すように癖付けておいて下さい。

（６）褒賞に関する事項

・一年間頑張ってくれたメンバーに贈る最後の大事な催しとなりますので専務理事を通じて早めに各委員長に推薦できるメンバーを考えておいていただくよう、働きかけをしてください。

・卒業例会の褒賞での進行の際に専務理事に読んでいただく資料があればプリントして事前に準備しておいて下さい。それと賞状の理事長の名前の所にＪＣＩひびきの角印を押すのを忘れないようにして下さい。

（７）出向に関する事項

・ＪＣＩひびきの運動とは別に、福岡ブロックの動きとしてアカデミー事業がありますがこちらに関しての動きも委員長を主軸にアンテナを張っておいてください。

・アカデミー事業に参加するということ自体が出向者へのフォローにつながるということを理解し、可能な限り日程調整などを行い、委員メンバーも巻き込みながらアカデミーに関する動きに参加してください。

（８）各種大会への参加に関する事項

・全国規模で行われるＪＣ運動を委員長自らが参加しその中でフォロワーメンバー（総務委員会の委員メンバーなど）に開催される旨や時期、内容をしっかりと情報共有できるようにして委員会を巻き込んで参加して下さい。委員会などで報告内容として周知することが効果的と思います。

（９）会員拡大に関する事項

・２０２２年度の総務委員会では、会員拡大に関する動きができたとは言えません。次年度への提言として、月に１回以上行われる委員会においてオブザーバー情報を発表する場を設けることが望ましいと思います。ぜひ、委員会の際などに委員メンバー（委員長、副委員長含む）に知り合いやＪＣに興味のありそうな知人がいないかどうかなどの情報共有の場を設けてください。

（１０）その他総務に関する事項

・総務委員会の職務は青少年事業、地域事業とは特色が少し異なり、独自性やアイデア性を求められることよりも資料をしっかりと準備することや議事録作成などの事務的な要

素が多い傾向にあります。そのため、委員メンバーが途中から反応が薄くなってくるなどの現象が２０２２年度には見られました。このようにならないためにも、委員メンバーとの結束を普段から強めておき、総会開催や選考委員会選挙の開催時に連携をしっかりと取って、実りある委員会活動を行っていただきたいと思います。そして今年度は公益社団法人から一般社団法人へ変わることが総会にて決議され来年度からは一般社団法人ひびき青年会議所となることが決定しました。次年度に公益から一般に変わると何が変わるのかをしっかりと引き継いでいきます。

**５．実施組織**

委員長　　湯浅　允斗
副委員長　重信　佳南
委員　　梅村　志織
委員　　宮崎　清志郎

（委員５０音順）

# 月別事業内容及び決算

（単位：円）

| 月 | 事業内容 | 予算 | 決算 | 事業収入 | 摘要 |
|---|---|---|---|---|---|
| １月 | １月度総会 | 45,000円 | 35,577円 | | |
| ２月 | | | | | |
| ３月 | ３月度総会 | 40,000円 | 16,065円 | | |
| ４月 | | | | | |
| ５月 | | | | | |
| ６月 | ６月度選考委員会選挙 | 15,000円 | 14,690円 | | |
| ７月 | | | | | |
| ８月 | ８月度例会・総会 | 30,000円 | 24,938円 | | |
| ９月 | | | | | |
| 10月 | | | | | |
| 11月 | | | | | |
| 12月 | 褒賞 | 30,000円 | 21,881円 | | |
| 合計 | | ¥150,000 | ¥113,151 | ¥0 | |
| 決算 | 事業予算　事業収入　決算　残金<br>（ ¥150,000 ＋ ¥0 ） － ¥113,151 ＝ ¥36,849（本会計へ） | | | | |
| 備考 | | | | | |

# ２０２２年度　５０周年実行委員会

**～基本方針～**

尊敬する志高い先輩諸兄が明るい豊かな社会の実現をめざし、１９７２年に我々の前身でありますＪＣＩ中間を設立され、名称変更を経てＪＣＩひびきへと変わり昨年５０周年を迎えましたが、５０周年式典は新型コロナウイルス感染症の影響によって延期となりました。今以上に現役メンバーが一致団結し、先輩諸兄が築き上げてこられた歴史とともに地域の皆様のご理解とご協力に感謝をして、我々の運動を次世代につなぐ必要があります。

まずは、先輩諸兄の築き上げてこられた熱い想いを次世代に受け継がせるために、５０年間の歴史を映像化しメンバーに周知させることで５０周年式典を成功へと導きます。そして、私たちが地域に必要とされる団体であるために、式典ではＺＯＯＭ開催も視野に入れ未来ビジョンを発信し、我々が日頃のご支援ご協力に感謝の意を込め懇親会を行うことで１市４町の首長様、関係諸団体様、地域の皆様と強固な関係を構築していきます。さらに、我々の運動を伝えるために５０年間の歴史を記念誌として配布することで今後の活動につなげます。また、１市４町の地域住民が安心して生活してもらうために、４町に続き、中間市でも地域の諸団体と協力し合い防災井戸に協同することで、資源を確保します。そして、現役メンバーが絆を深めていくために、事業への参加促進を積極的に行いＪＣの三信条の奉仕、修練、友情をＬＯＭメンバーに理解してもらうことで思いやる気持ちを育んでいきます。さらに、ＪＣＩひびきの成長につなげるために、出向や各種大会で得た経験をメンバーと共有するとともにＪＣの素晴らしさを発信することで会員拡大に寄与します。

先輩諸兄が努力して築き上げてこられた５０年間の歴史や伝統を学び、ＪＣＩひびきメンバーがＪＣの素晴らしさを共に感じ、責任を持って活動を続けていくとともに、受け継がれてきた地域への熱い想いを次世代へつなぐ人財へ成長し持続可能な地域を実現します。

**１．事業別内容（方法・手段・評価・反省）**

（１）５０周年記念式典・懇親会の開催・記念誌に関する事項

（方法・手段）

先輩諸兄の築き上げてこられた熱い想いを次世代に受け継がせるために、５０年間の歴史を映像化しメンバーに周知させることで５０周年式典を成功へと導きます。

私たちが地域に必要とされる団体であるために、式典ではＺＯＯＭ開催も視野に入れ未来ビジョンを発信し、我々が日頃のご支援ご協力に感謝の意を込め懇親会を行うことで１市４町の首長様、関係諸団体様、地域の皆様と強固な関係を構築していきます。

我々の運動を伝えるために５０年間の歴史を記念誌として配布することで今後の活動につなげます。

（評価・反省）

ＬＯＭメンバーにパワーポイントを使用して５０年間のＪＣＩひびきの歩みを説明したことによって、先輩諸兄の築き上げてこられた熱い想いを次世代に伝えることができ、厳

粛ある記念式典を行うことができました。新型コロナウイルス感染症の影響で懇親会を行うことはできませんでしたが、未来ビジョンを発信したことで、１市４町の首長様、関係諸団体様、地域の皆様強固な関係を築けることができたと思います。また、記念誌を配布したことによって今後の事業活動に対してご理解をいただき、今後の活動において、さらなるご支援、ご協力を得られると期待できます。しかし、記念誌の郵送封筒の印刷に時間がかかってしまい、９月２０日に送る予定が一週間遅れてしまいました。

（２）防災井戸建設に関する事項
（方法・手段）
１市４町の地域住民が安心して生活してもらうために、４町に続き中間市でも地域の諸団体と協力し合い防災井戸に協同することで、資源を確保します。
（評価・反省）
私自身の認識不足により中間市の防災井戸は２０２４年度の設置に向け協同する運びとなりました。今年度は水巻の防災井戸を協同したことによって、災害時に資源を確保できるようになりました。また、私の認識不足でのぼりと旗を間違え、遠賀ロータリークラブの旗の準備ができておらず、当日に急遽準備していただいたため、遠賀ロータリークラブの方に迷惑をかけてしまいました。

（３）出向に関する事項
（方法・手段）
ＪＣＩひびきの成長につなげるために、出向や各種大会で得た経験をメンバーと共有するとともにＪＣの素晴らしさを発信することで会員拡大に寄与します。
（評価・反省）
出向したことによって他ＬＯＭの方と出会える機会ができました。しかし、全ての事業に私自身も参加できず、出向で得た経験をメンバーと情報共有することができなかったため、成長という課題に大きな進歩はみられなかった。また、直接的な会員拡大にもつなげることができなかった。今後は出向できるように勤めます。

（４）各種大会への参加に関する事項
（方法・手段）
私自身の経験を委員会メンバーに発信し、各種大会への参加を促します。
（評価・反省）
過去の経験をメンバーに発信したことで、京都会議に参加予定だったが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となってしまいました。それ以降、私が各種大会のすべてに参加できなかったため、委員会メンバーに私の経験を発信することができず、各種大会への参加につなげることができませんでした。

（５）会員拡大に関する事項
（方法・手段）
会員拡大と連携を取り合い、会員拡大の増加に繋げます。
（評価・反省）
知人にＪＣという団体があることを発信できたので良かったと思います。しかし、オブザーバーを呼ぶことができなかったため、会員拡大と連携することができず、会員拡大につなげられませんでした。

（６）その他５０周年に関する事項
（方法・手段）
他の式典事業に積極的に参加し５０周年に対しての意識昂揚の一助とします。
（評価・反省）
他ＬＯＭの周年に参加したことによって、式典事業において理解が深まり、その経験を活かすことでＪＣＩひびきの式典成功につなげることができました。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響により、懇親会を行えなかったことが残念な結果となってしまいました。

**２．総評**
今年も新型コロナウイルス感染症の影響はあったが、無事に５０周年記念式典・防災井戸寄贈式を終えることができとても嬉しく思います。式典を開催するにあたって、歴代理事長にご挨拶に伺ったことでＪＣＩひびきの歴史や仕事の経験等の貴重なお話を聞くことができました。そして、メンバーにＪＣＩひびきの歴史や伝統、また活動内容を発信したことによって、次世代へつなぐ人材の成長につながったと確信します。また、防災井戸に関しても水巻町から表彰式にお招きいただき、私たちが地域に必要とされる団体であることの証明にもつながったと思います。しかし、私自身が各種大会や出向に対して全て出席できなかったため、ＬＯＭ内だけでなく様々なＪＣ活動においての素晴らしさを経験できなかったことが反省点です。

**３．担当常任理事所見**
昨年度延期になった５０周年記念式典を引き継ぐ形での実行委員長ということで、他の委員会とは異なる大変さがあったと思います。懇親会の開催は中止となりましたが、記念式典を無事に終えることができたのも、委員長自身が委員会をまとめ、関係各所との連絡を密に行っていたからこそであると感じています。また、井戸の寄贈式でも、その姿は同様で、委員長の事業に対する責任を随所に見ることができました。その姿を見ている委員会メンバーは今後のＪＣＩひびきに必要な人材になっていただけると期待しています。委員長自身も１年間職務をまっとうしたことを糧にして、今後の活躍を期待しています。

**４．次年度への引継ぎ事項**

（１）５０周年記念式典・懇親会の開催・記念誌に関する事項

・記念式典に関しては、来賓者が多いため駐車場が確保できる場所で行うことが好ましいです。４５周年の岡垣サンリーアイでは駐車場がたくさんあるので確保できていたが、今回の中間ハーモニーホールでは駐車場台数は確保できますが、他のイベントと重なってしまったために足らず、万が一のために事前に隣の体育館の駐車場を使用させてもらいました また、周年事業は何月何日がよいかを１市４町の町長の皆様、来賓者の皆様、シニアクラブの皆様の都合を調べて様々な意見を聞いて検討してください。

・５５周年時の行動指針は今ひびきエリアに必要なことは何かをよく考えてみんなで意見を出し合い作成してください。

・例会等で５０周年のＰＲ、動員を行う場合はメンバーの方々に周年は何故行うということを端的に説明し事業のＰＲ等を行ってください。

・記念誌に関しては、シニアクラブに相談し、許可を得てから印刷を行ってください。

（２）防災井戸建設に関する事項

・芦屋町・遠賀町・水巻町は防災井戸設置済です。来年度は岡垣町（サンリーアイ）・再来年度は中間市に防災井戸を設置する予定となっています。遠賀ロータリークラブの担当者と打ち合わせをし、町長や市長の都合を聞いて防災井戸ができあがり次第、贈呈式の日程を決めてください。

（３）出向に関する事項

・出向できるようにスケジュールの調整を行い、出向で学んだことをメンバーと情報共有できるよう努めてください。

（４）各種大会への参加に関する事項

・委員長が参加することで委員会メンバーも参加してくれるようになるのでスケジュールを確認し、参加できるように努めてください。

（５）会員拡大に関する事項

・委員長だけでなく委員会メンバーにも協力してもらい、友人や知人を紹介してもらってＪＣという団体の情報を共有できる場を設けてください。

（６）その他５０周年に関する事項

・周年事業を開催されることが少なく情報が少ないため、他ＬＯＭで周年事業がある場合には積極的に参加し写真や動画を使ってメンバーと情報共有できるようにしてください。また、周年事業があったＬＯＭと情報共有し、議案に反映させてください。

**５．実施組織**

| | | |
|---|---|---|
| 委員長 | 柴田　祐希 | 出向先　福岡ブロック　福岡の力覚醒委員会 |
| 副委員長 | 文岩　栄貴 | |
| 委員 | 廣渡　洸士 | |
| 委員 | 藤谷　英敏 | |

（委員 50 音順）

# 月別事業内容及び決算

（単位：円）

| 月 | 事業内容 | 予算 | 決算 | 事業収入 | 摘要 |
|---|---|---|---|---|---|
| １月 | | | | | |
| ２月 | | | | | |
| ３月 | | | | | |
| ４月 | | | | | |
| ５月 | | | | | |
| ６月 | | | | | |
| ７月 | | | | | |
| ８月 | | | | | |
| ９月 | 50周年記念式典<br>50周年記念広報 | 1,046,000 | 980,586 | | 予算式典496,000決算441,737<br>広報550,000　538,849 |
| 10月 | | | | | |
| 11月 | | | | | |
| 12月 | | | | | |
| 合計 | | ¥1,046,000 | ¥980,586 | ¥0 | |
| 決算 | 事業予算　事業収入　決算　残金<br>（ ¥1,046,000 ＋ ¥0 ） － ¥980,586 ＝ ¥65,414（本会計へ） | | | | |
| 備考 | | | | | |

# ２０２２年度　青少年育成委員会

**～基本方針～**

　２０２０年から続く新型コロナウイルス感染症の影響で、学校行事や地域行事など、今までは当たり前にできていた体験の機会が減りリモート授業など子供たちの取り巻く環境は大きく変わりました。子供たちの未来を考えると、子供たちへの青少年育成が将来に希望をもたらす必要があり、社会と連携しながら学びを深め、さまざまな体験をすることで子供達がこの先も変化し続けていく社会情勢に迅速に適応する力を付ける必要がありす。

　まずは、メンバーの模範となるために、率先して事業に取り組むことで、青少年育成委員会メンバー全員の意識を高めます。そして、よりよい事業を行うために、それぞれの意見や感じることを発信し合うことで、委員会メンバーが一致団結し事業に取り組めるように努めます。さらに、青少年事業に関わる子供たちが困難な課題にも柔軟な対応ができるようになるために、事業に参加した子供たちがはじめて顔を合わす人と同じ目標のために協力し合うことで、事業に参加したからこそ得る多くの経験と前向きな気持ちを育みます。また、地域の子供たちにわんぱく相撲で夢を与え思いやりを学んでいただくために、遠賀部屋の子供たちをわんぱく相撲に引率し参加することで、夢や目標を持ち努力することの大切さ、勝つことの喜びや負けることの悔しさを感じ敗者への思いやりの気持ちを育みます。そして、新春懇親会では２０２２年度も変わらぬお力添えをいただくために、理事長所信をはじめ、理事メンバーの紹介や年間の活動方針などを魅力的に発信することで、参加していただいた方々に２０２２年度の活動方針をご理解いただく場を設営いたします。

　子供たちにこの先訪れる問題に対して、多くの経験から広い視野から解決策を導けるようになり、未来を担う子供たちの事を考える中で、私たち自身も様々な事を体験していき時代とともに大きく変わるこの環境でも希望ある将来を描き持続可能な地域を実現します。

**１．事業別内容（方法・手段・評価・反省）**

（１）青少年育成事業の企画運営に関する事項

（方法・手段）

事業に参加した子供たちが初めて顔を合わす人と同じ目標のために協力し合うことで、事業に参加したからこそ得る多くの経験と前向きな気持ちを育みます。

（評価・反省）

子供たちが初めて顔を合わす同士協力し合っている姿を見て、１日目より２日目という風に成長したのを感じ、最後まできついことも諦めずに事業に参加してくれた子供たちはチャレンジ精神を養い、とても良い経験となったと感じます。しかし、事業内容として班での行動が多く、もっと全体で交流できる事業を構築できていればもっと良い事業となっていたと感じ、議案の構築時は委員会メンバーも巻き込み自分だけの意見で構築せず周りのアイデアも取り入れるべきでした。

（２）わんぱく相撲の引率に関する事項
（方法・手段）
夢や目標を持ち努力することの大切さ、勝つことの喜びや負けることの悔しさを感じ敗者への思いやりの気持ちを育みます。
（評価・反省）
大会後に選手の話を聞くと来年勝てるように頑張りたいという声を聴けて、負けたからこそ得れるものを感じて吸収してくれたと感じます。過去の参加者に流れを聞くなどの引継ぎをしていなくて、当日会場へ行き引率の流れを把握できておらず、遠賀川部屋の人に頼りっきりになりご迷惑をおかけした。

（３）新春懇親会の開催に関する事項
（方法・手段）
理事長所信をはじめ理事メンバーの紹介や年間の活動方針などを魅力的に発信することで、参加していただいた方々に２０２２年度の活動方針をご理解いただく場を設営いたします。
（評価・反省）
演出のリハーサルを重ねスムーズに進行をすることで、理事長所信の入りやすさと伝わりやすさを意識し設営しました。しかし、当日急遽これないメンバーもいて組織図に変更があり、設営に手間取る場面もあり動員不足だったと痛感しました。

（４）各種大会への参加に関する事項
（方法・手段）
自身の経験を委員会メンバーに話し、各種大会への参加を促します。
（評価・反省）
サマーコンファレンスにリアル参加でき、私自身初参加なのでとても良い経験でした。しかし委員会メンバーに各種大会の魅力は伝えることができず、動員ができませんでした。

（５）会員拡大に関する事項
（方法・手段）
拡大委員会と連携を取り合い、会員拡大につなげます。
（評価・反省）
オブザーバーを拡大委員長に紹介するなど機会を作ることはできましたが、拡大にメンバー全員で尽力はできていませんでした。自ら率先してオブザーバーの声掛け等をしていけばよかったです。

（６）その他青少年の育成に関する事項
（方法・手段）
迅速に対応します。
（評価・反省）

事業計画時当初、予算の計画段階では子供ゆめ基金を給付いただき事業を行う予定で事業を進めていたが、報告の申請が遅れ取消という結果になり計画予算と大きく差異が発生し深く反省となりました。

**２．総評**

新春懇親会に関して、この事業を任されたという責任感を感じながらもなかなか議案の構築ができず、ギリギリまで修正を重ねていたが、ＪＣＩひびきの１年の始めとなる事業だと自負し、各委員長にも協力をお願いし、協力いただけたおかげで当日急な対応にも対応していただき無事に事業を終えることができメンバーの暖かさを感じ団結力を高めることができる事業となったと感じています。

青少年育成事業に関して、「子供たちにこの先訪れる問題に対して、多くの経験で広い視野から解決策を導けるようになり、未来を担う子供たちの事を考える中で、私たち自身も様々な事を体験していき時代とともに大きく変わるこの環境でも希望ある将来を描き持続可能な地域を実現します。」という基本方針の目標を１年間掲げ事業構築を行ってきました。子供達にはこの事業に参加したからこそ得れる経験や友情が育めたと感じました。また、子供たちを連れての宿泊事業の経験者がメンバーであまりいない中で、わからないなりにやっていき凄く責任感を感じながら委員会運営を行ってきました。色々な方のご協力もあり、大きなケガ人も出ることなく無事に子供たちを親元に帰せたことは誇りに思います。特に委員会メンバーが率先して、事業を行うことを自分のことのように考えて、準備から実施日まで汗をながしてくれた姿には感銘を受けました。初めて理事の立場になり深くＪＣＩひびきに関わることができ、今の自分の強みや弱みなどを再確認できる１年になりました。本年は様々な方のご協力があったおかげで無事に全事業が終了したと感じています。ありがとうございました。

**３．副理事長所見**

原委員長、一年お疲れ様でした。予定者段階から大きな事業計画を行いましたが、例年弱音を吐く委員長が出ることもあるなか、そのような様子はなく予定者段階から一年を通してやる気を失うことが無かったことはたくましく思います。また、新型コロナウイルス感染症の影響で、例年を経験したことがないメンバーが多いなか、新春懇親会と青少年育成事業を担当委員長として責任ある姿で取り組み、委員会メンバーをまとめ、ＬＯＭメンバーを巻き込んだ良い事業ができたと思います。新春懇親会と青少年育成事業と２つの大きな全体事業をやり遂げたこと自信にしてください。事業当日に力を発揮する能力は他の委員長と比べナンバーワンだと感じていますが、来年は委員長を指導する立場ですので、目標に対しての計画的な予定の立て方とその予定を確実に遂行することを心がけるとより原委員長の実力が発揮できると思いますのでアドバイスとさせてください。

**４．次年度への引継ぎ事項**

（１）青少年育成事業の企画運営に関する事項
・準備が一番大事であるため、審議が通ったらすぐに備品の確認や、本当に何が必要なのかなど、委員会メンバーと話し合い、イレギュラーなことが起こっても対応できるようにしておくべきです。また、助成金等を申請する予定になった場合は手引きなどを見て確実なスケジュール間を把握し、申請、報告を済ませるようにしてください。

（２）わんぱく相撲の引率に関する事項
・１市４町ではなく他の地域からの出場の依頼があったがどのように処理していいのかからず時間がすぎ最終的に主管ＬＯＭに任せた形になりご迷惑をおかけしたので、次年度以降このような事例がある場合は速やかに主管ＬＯＭに相談するなどして対応してください。また、過去の参加者に引率の流れなどを引継ぎ内容を把握しすこしでも遠賀川部屋のかたの負担を減らせるようにしてください。

（３）新春懇親会の開催に関する事項
・年初めの対外事業となりますので、委員会メンバーだけでなく全メンバーを巻き込めるように計画や準備を進めてください。また、来賓の方で登壇者がいる場合は必ず事前に伝えておいてください。

（４）各種大会への参加に関する事項
・メンバー間の絆を深めることのできる事業なので、できるだけ多くのメンバーと参加してください。

（５）会員拡大に関する事項
・拡大委員会だけで行わず、メンバーに責任を持一人ひとりに持たせて全員で拡大を行ってください。

（６）その他青少年の育成に関する事項
・地域の青少年育成団体などと連携がとれず地域が求めている青少年育成に対しての価値観などを共有できなかったので事業構築時に話を聞いてみて、地域が求めているものを共有してください。

**５．実施組織**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 委員長 | 原　直人 | 福岡ブロック協議会福岡の力覚醒委員会 | 出向 |
| 副委員長 | 山本　凌士 | 福岡ブロック協議会アカデミー第１委員会 | 出向 |
| 委員 | 鐘ヶ江　将 | | |
| 委員 | 西村　郁弥 | | |
| 委員 | 肘井　優 | | |
| 委員 | 村上　賢司 | | |

（委員５０音順）

# 月別事業内容及び決算

（単位：円）

| 月 | 事業内容 | 予算 | 決算 | 事業収入 | 摘要 |
|---|---|---|---|---|---|
| １月 | 新春懇親会 | 350,000 | 316,939 | | |
| ２月 | | | | | |
| ３月 | | | | | |
| ４月 | | | | | |
| ５月 | | | | | |
| ６月 | | | | | |
| ７月 | | | | | |
| ８月 | 青少年事業 | 1,018,467 | 775,049 | | |
| ９月 | | | | | |
| 10月 | | | | | |
| 11月 | | | | | |
| 12月 | | | | | |
| 合計 | | ¥1,368,467 | ¥1,091,988 | ¥0 | |
| 決算 | 事業予算　事業収入　決算　残金<br>（¥1,368,467 ＋ ¥0 ） － ¥1,091,988 ＝ ¥276,479（本会計へ） | | | | |
| 備考 | | | | | |

# ２０２０年度　地域開発委員会

**～基本方針～**

私たちの活動拠点であるひびきエリアは、現在、人口流出や地域災害などの様々な取り組むべき課題や問題を抱えていますが、先人たちが築き上げてきた素晴らしい歴史や文化、地域のシンボルである遠賀川があります。地域開発委員会は、この地域に対して一人でも多くの方に郷土愛を深めていただける運動や活動を行うとともに、各行政機関や各種団体の方々と連携を強化しながら、活気に満ち溢れたまちづくりに取り組む必要があります。

まずは、委員会メンバーの出席率を上げるために、私自身が情熱をもってＪＣ活動に率先して取り組み、楽しく委員会運営をすることで、１年間共に活動する委員会メンバーの参画意欲が高まります。そして、委員会メンバーがＪＣ活動に対して楽しく参加してもらうために、意見を出しあえる環境を作り、お互いに切磋琢磨していくことで友情の輪が広がります。さらに、ひびきエリアの地域の方々に郷土愛を育んでもらうために、この地域に関する特産、文化、動植物の生態系を学ぶさまざまな体験ができるまちづくり事業を構築することで、地域の方々にひびきエリアの魅力を再発見してもらいます。また、地域住民の方が安心、安全な生活を送っていただくために、各行政機関や各種団体と連携し、防災要素である共助の意識を高める講演、シミュレーションや避難所体験を行う防災事業を構築することで、防災に対して意識を醸成します。そして、この地域のさらなる連携強化を促進させるために、各エリアの行事には積極的に参加し、ＪＣＩひびきと地域の方々がより密着し新しいコミュニティが誕生することで、住みやすいまちづくりにつながります。

その結果、地域開発委員会メンバーの一人ひとりが地域に対する郷土愛の意識が向上し、地域に対して必要な人材へと成長するとともに、ＪＣＩひびきの活動が地域により多く認知され、地域の方との深い連携でつながった団体になり、持続可能な地域を実現します。

**１．事業別内容（方法・手段・評価・反省）**

(1) 地域開発事業の企画運営に関する事項

（方法・手段）

ひびきエリアの地域の方々に対して郷土愛を育んでもらうために、この地域に関する特産、文化、動植物の生態系を学ぶさまざまな体験ができるまちづくり事業を構築することで、地域の方々にひびきエリアの魅力を再発見してもらいます。

（評価・反省）

まずは、台風の発生があり、事業ができるか心配しておりましたが、コロナ対策を十分に行い、無事に開催できた点はよかった点です。中間市の魅力を再発見、再認識する事業として参加者の動員に最後まで苦労しましたが、目標の１００人を動員できた点もよかった点です。しかしながら、中間市民が２８人、遠賀町１９人、水巻町９人、その他地域４４人と参加者の約半数が他地域からの参加であったことは、中間市の魅力を再発見につなげれてよかったのですが、中間市の魅力を再認識することについて、中高生や若い世代の動

員が増やせなかったことが、広報戦略での反省点になります。また、事業当日のメンバー参加率が低かったことで、ウォークラリーコースでの対応が不十分な点があり、参加者の満足度をあげることができなかった点は反省点です。

(2) 防災事業の企画運営に関する事項

（方法・手段）

地域住民の方が安心、安全な生活を送っていただくために、各行政機関や各種団体と連携し、防災要素である共助の意識を高める講演、シミュレーションや避難所体験を行う防災事業を構築することで、防災に対して意識を醸成します。

（評価・反省）

防災士である江藤様を招き、避難所での実体験を踏まえた講演は参加者からわかりやすく、避難所でのイメージができたとの意見もあったことはよかった点です。また、１市４町の防災担当者様、防災協定を結んでいる社会福祉協議会様との連携を図れたこともよかった点です。反省点としては事業に参加予定となっていたメンバーが都合により参加できず、グループごとに参加者の人数に隔たりが出てしまった点です。

(3) 地域の行事に関する事項

（方法・手段）

各エリアの行事には積極的に参加し、ＪＣＩひびきと地域の方々がより密着し新しいコミュニティが誕生することで、住みやすいまちづくりにつながります。

（評価・反省）

中間市の団体である日本赤十字協会からの依頼で、５月８日に中間市の清掃をし、曲川を守る会からの協力依頼で、５月２９日に曲川周辺の清掃活動に参加しました。当委員会から５月８日は３名が参加、５月２９日は２名が参加し清掃活動や他団体との交流に寄与できました。反省点としては、動員方法でもっと全体ラインや委員会ラインでの呼びかけや直接電話での動員があまく参加意欲を高めることができなかったため、結果参加人数が少なかった点です。

(4) 出向に関する事項

（方法・手段）

私自身が出向し、体験談を委員会メンバーに伝えます。

（評価・反省）

当委員会は私自身が福岡ブロック協議会アカデミー第１委員会に出向しました。地域開発委員会を開催する際に貴重な体験を委員会メンバーに周知を図りました。その結果として次年度、福岡ブロック協議会アカデミー委員会に出向したいというメンバーもいたことがよかった点です。しかしながら、日々のスケジュール管理ができていなかったため、すべてのアカデミー事業に参加できなかった点は反省点です。

(5) 各種大会への参加に関する事項
（方法・手段）
委員会メンバーに参加を促し、積極的に参加します。
（評価・反省）
本年度は初めて全国大会に参加することができよい経験をできたことがよかったです。しかし、その他の大会に私自身参加できなかったことから、仕事とＪＣのスケジュール管理の点で反省です。

(6) 会員拡大に関する事項
（方法・手段）
拡大委員会と連携を取り合い、会員拡大につなげます。
（評価・反省）
地域開発事業で参加していただいた業者様に声をかけ、１名入会となったことはよかったです。しかし、委員会メンバーを巻き込めず、会員拡大の意識を高く持たせることができなかったことが反省点です。

(7) その他地域開発に関する事項
（方法・手段）
迅速に対応します。
（評価・反省）
当委員会では他の委員会と比べ地域のつながりが強いところもあり、他の団体から地元の行事に関わってほしいとの要望をいただくことがありました。１市４町でＪＣＩひびきが必要とされていることがよかった点です。反省点は他団体の要望に対応できるようにＬＯＭメンバーに周知できなかったことです。

**２．総評**

事業構築を行う際、委員会メンバーが地域のことを調べたり、地域団体との関りを持つことができ、より地域のことがわかり興味を持ってくれました。そこで、郷土愛が向上したと確信します。また、地域事業、防災事業を行う際に、広報での告知やチラシ配りでＪＣＩひびきが行っている活動が多く方々に認知されました。また、事業に関して各種団体や地域の方々と関わることができ、地域の方々とＪＣＩひびきが深い連携でつながった団体になりました。当委員会では、防災事業、地域開発事業がともにリアル開催できたことがよかったです。事業開催にあたって全体会議、全体準備、当日事業といった開催までの取り組みの経験をする機会ができたことはよかった点です。また、委員会運営に関して、メンバーをうまくまとめることができ、出席率の高い委員会になったことが私自身評価できる点です。しかしながら、事業に参加するＬＯＭメンバーをうまく巻き込めることができなかったので、出席率が上がらなかったことは反省点です。

**３．副理事長所見**

入会初年度で委員長を受け、様々な事を一気に行うこととなり、順応に至るまで困難な日々が続いたと思います。しかし持ち前の誠実さと、上手くメンバー巻き込んでいくことで、１年間委員長の職務を真っ当していただきました。事業計画、動員など様々な点で苦労があったと思いますが、そこに費やした時間や苦労は経験値となって今後のＪＣ活動や人生においてよりよい変化をもたらすことだと思います。また年度途中に新入会員のメンバーが多く委員会メンバーとして配属されましたが、委員長として引っ張っていただき、出席率の高い委員会となったことは、当ＬＯＭの功労者と言えると思います。今年度の経験を活かし次年度以降の更なる活躍を期待しております。１年間大変お疲れ様でした。

**４．次年度への引継ぎ事項**

（1）地域開発事業の企画運営に関する事項

・地域事業は予算が多く事業構築の際に、とても大変になるのでタイムスケジュールをしっかりきめて議案作成、打ち合わせ、各種団体との協議を行っていかないと事業に間に合わないです。特に分割審議をどのタイミングで取らなければいけないのかをしっかりと把握しておいてください。また、委員会メンバーを事業に巻き込まないと、事業が成功しないため委員会を月一回ではなくまめに行なったり、議案作成をみんなで行って事業を把握してもらうことが大切になります。事業の準備、当日は事業の規模によるが、委員会メンバーだけでは運営を行う際に限界があるので、ＬＯＭメンバーに一人でも多く参加してもらう必要があります。そのためには、各委員長とのつながりを大事にし、コミュニケーションを常に図ることで、各委員会メンバーの動員協力をお願いすれば少しでも多くのＬＯＭメンバー参加が期待できます。事業構築を行う際に、後援、協力をお願いしたい行政や他団体にあいさつや事業説明をしっかりと行いどのように関わってもらいたいかの意図を伝えてください。そして、こまめに連絡や事業内容が変更になったときは、報告するようにすれば対応も早くお互いにより良い関係性になり事業構築がスムーズに進みます。また、各地域の商工会を訪ねていけば地域の状況がわかりやすいです。また、今回の事業で他団体のパトラン遠賀チームより、広報や事業参加の協力をしてもらったので地域事業の際は、協力依頼をしてください。

（2）防災事業の企画運営に関する事項

・防災事業を行うのであれば、４月か５月または１０月か１１月に開催した方がいいです。これは、行政からの要望でもあり、出水期は避けてほしいとのことでした。各市町に原本の締め切り期日を早めに聞いておき、分割審議のスケジュールを把握してください。年間を通して防災訓練の講習が各地域で開催されているので、参加してから事業構築をすればよりいい事業になります。防災事業を構築されている行政と打合せを行うことでより事業構築が進みます。前日に準備が必要であれば、会場費を予算に入れ込んでください。今回は、事前に事業内容の説明と打合せのみでの予算書を作成してもらったため、当日、会場設営時に変更箇所が出ました。事前の事業説明時に細かい説明や会場の要望を伝えること

が必要です。グーグルフォームの活用もいいが、併用して申込用紙を作成し各自治会の会長と動員について打合せを行う必要があります。各自治会長様に挨拶に行くとより効果的です。

（3）地域の行事に関する事項

・他団体からの動員依頼がきましたら、地域開発メンバー、ＬＯＭメンバーに早めに周知して動員してください。また、ひびき青年会議所からも地域事業での動員を他団体にお願いするようにしてください。

（4）出向に関する事項

・委員会や事業をする際は出向者のスケジュールを確認してください。

（5）各種大会への参加に関する事項

・各種大会の趣旨を説明し、動員の声掛けを徹底してください。

（6）会員拡大に関する事項

・地域開発事業等で関わる方に青年会議所の魅力を伝えるようにメンバーに周知してください。委員会メンバーにオブザーバーがいないか声掛けを徹底してください。

（7）その他地域開発に関する事項

・地域の問題点や地域のイベントに関心をもって活動してください。

**５．実施組織**

| | | |
|---|---|---|
| 委員長 | 梅田　衛 | 福岡ブロック協議会アカデミー第１委員会に出向 |
| 副委員長 | 都津川　泰宏 | |
| 委員 | 上田　理子 | |
| 委員 | 大庭　崇亨 | |
| 委員 | 三宮　颯人 | |
| 委員 | 瀬川　愛梨 | |
| 委員 | 田染　智絵 | |

（委員５０音順）

# 月別事業内容及び決算

（単位：円）

| 月 | 事業内容 | 予算 | 決算 | 事業収入 | 摘要 |
|---|---|---|---|---|---|
| １月 | | | | | |
| ２月 | | | | | |
| ３月 | | | | | |
| ４月 | | | | | |
| ５月 | | | | | |
| ６月 | | | | | |
| ７月 | 助け合い！～共助の心を育もう～ | 300,000 | 297,036 | | |
| ８月 | | | | | |
| ９月 | 再発見、再認識～見つけよう私のまちの魅力～ | 1,000,000 | 987,746 | | |
| 10月 | | | | | |
| 11月 | | | | | |
| 12月 | | | | | |
| 合計 | | ¥1,300,000 | ¥1,284,782 | ¥0 | |
| 決算 | 事業予算　事業収入　決算　残金<br>（¥1,300,000 ＋ ¥0 ） － ¥1,284,782 ＝ ¥15,218（本会計へ） | | | | |
| 備考 | | | | | |

※白枠の部分のみ記入可。

# ２０２２年度　例会委員会

**～基本方針～**

２０２０年に起きた新型コロナウイルス感染症によるパンデミックのため会員拡大活動は制限を余儀なくされている場面が増えていますがＪＣＩひびきでは近年会員数を大きく伸ばすことに成功しており現在７０名に迫る会員数となっています。ＪＣＩひびきの運動力を大きくするには、さらに多くの同志がＪＣＩひびきに集うようこれまでの手法だけでなく新しい時代に即した会員拡大手法を模索し会員拡大の能力増強を図る必要があります。

まずは、コロナ禍によってＪＣ活動が困難な中でも、会員人数を多く増やすために通常時の拡大活動の手法に加えて、ＷＥＢやＳＮＳを活用した非接触型の交流を行うことで、今の時代に合った新たな拡大の手法とつながります。そして、ＪＣＩひびきを魅力ある人財があふれる団体にするために、新入会員セミナー時に、新入会員が理解しやすい言葉や、説明を含んだセミナー内容を構築することで、新入会員がＪＣＩひびきにより早く馴染んでいただくことになります。さらにＪＣの魅力を対外の方々に知っていただくためにＪＣのメリットやＪＣ運動の意義などがわかりやすく伝わる拡大事業を開催することで、ＪＣに興味を持ち、入会を検討する方々を増やすことができます。また、ＪＣＩひびきに所属するすべてのメンバーで会員拡大に取り組むために、定期的に拡大戦略会議を開催して、現状の把握と今後の対策を全員で共有することで会員拡大に対する意識の向上を図ることとなります。そして、卒業パーティーでは卒業生と現役メンバーが一丸となり、２０２２年度のＪＣＩひびきの振り返りを行うことで、感動的な設えを実施することができます。

会員拡大の重要性をＪＣＩひびきのメンバー全体へと浸透させることに成功し、発展途上にある現在のＬＯＭが次なるステージへの一歩を踏み出し、ＪＣＩひびきの運動は１市４町を巻き込むことのできる運動へと成長することとなり、持続可能な地域を実現します。

**１．事業別内容（方法・手段・評価・反省）**

（１）毎月の例会の開催に関する事項

（方法・手段）

第１エリアのＬＯＭが連携し相乗効果を生むために、他ＬＯＭと合同例会を行い情報共有しＬＯＭメンバーにその情報を周知することでＪＣＩひびきという組織としての質の向上につながります。

（評価・反省）

第１エリア合同例会では、新型コロナウイルスの関係により開催日の変更や場所の変更等の問題生じましたが第１エリアのＬＯＭ間での情報共有や打ち合わせなどが潤滑に行われハイブリッド開催ができ情報共有等行えたことは評価したいと思います。しかし、開催前の直前にＪＣＩひびきの活動開始となり動員が上手くいかず参加率が低くなってしまい反省点が残ります。

（方法・手段）
地域に必要とされるＪＡＹＣＥＥになるために、それぞれの例会テーマを学び、共助、団結、挑戦、絆とし１年間をとおし三信条を学ぶことで、ＬＯＭメンバーの成長につながります。
（評価・反省）
開催した例会では学び、共助、団結、挑戦をテーマとし例会を開催することができ、その経験の中で地域貢献や自己成長につながる学びが多くあり、三信条を学ぶきっかけとなる例会を開催できたことは評価できると思います。しかし例会開始前の準備不足が目立ち厳粛なセレモニーが行えず目的達成を確認するアンケートも質問内容が薄く目的達成について確実な検証が行えなかったこともあったのが反省点でした。

（２）例会の出席率向上に関する事項
（方法・手段）
例会の参加率を高めるために、委員会メンバー一丸となり一人ひとり意義やメリットを伝えることでＬＯＭメンバーの参加意欲を高めます。
（評価・反省）
委員会では副委員長と連携し電話動員をし、どんな内容の例会を行いどんな学びが得られるのかを伝え動員できたことは評価したいです。しかし、委員メンバーを巻き込んでの委員会実施はなかなかできず委員長、副委員長のみでの例会の事業構築や動員となってしまったのが反省点です。

（方法・手段）
ＬＯＭメンバーが参加しやすい環境を作るために、委員会をとおして交流を深めることで参加したいと思う自主性につながります。
（評価・反省）
他の委員会に委員長と副委員長で参加しＬＯＭメンバーと交流を深められ昨年出席率の低かったメンバーや新入会員にも参加してもらえ、例会の開催日の再確認の電話等してもらえるようになり、自主性の向上につながったことは評価したいです。しかし、委員メンバーを巻き込んでの参加ができなかったことや、他の委員会に均等に参加できていないことは反省点として残っています。

（方法・手段）
結束力の強い委員会を作るために、委員会内でニューノーマル時代に適用しオンライン上での親睦会も取り入れ互いに顔を合わせ理解を深め合う機会を提供することで、委員会メンバーの絆を深めていきます。
（評価・反省）
委員会を行う際にＺＯＯＭ配信での委員会を行い事業構築し、委員メンバーと懇親を深めることができたのは評価したいです。しかし、オンラインでの委員会は１度しか採用して

おらず、委員会全メンバーでのオンラインでの委員会は実現せずメンバー全員との交流を持てなかったのが反省点として残ります。

（３）シニア合同例会の開催に関する事項
（方法・手段）
先輩方が築き上げてこられたＪＣＩひびきの歴史を未来に繋げるために、シニア合同例会ではＯＢの活動を知り、先輩方への感謝の気持ちを醸成してもらいます。
（評価・反省）
３年ぶりの開催としてシニアクラブと様々な打ち合わせを行い、動員や会場打ち合わせを入念に行い、当日日頃の感謝を伝え、新入会員や今年度の事業紹介を行いました。その中で無事問題もなく終われたことは評価したいです。ですが新入会員の紹介に関して各テーブルを回り委員長が紹介するなど工夫すればもっとよい例会になったのではと反省が残ります。

（４）各種大会への参加に関する事項
（方法・手段）
自身の経験を委員会メンバーに話し、各種大会への参加を促します
（評価・反省）
各種大会に参加するよう委員会時に委員会メンバーへ周知したことは評価したいです。しかし、委員長自身各種大会に参加しておらず、大会の魅力などを委員メンバーに伝えることができず巻き込んでの参加ができませんでした。

（５）会員拡大に関する事項
（方法・手段）
拡大委員会と連携を取り合い、会員拡大につなげます。
（評価・反省）
会員拡大委員長からのオブザーバーの確認などの連携は行っていました。ですが、例会委員会からの紹介者はおらず会員拡大につなげることはできませんでした。

（６）その他例会に関する事項
（方法・手段）
迅速に対応します。
（評価・反省）
新型コロナウイルスにより２月例会が開催されず、４月公開例会の日にちを変更し２月例会を４月例会として開催しましたが開催まで１ヶ月の中で準備を行い開催できたのは評価したいです。しかし、準備期間が１ヶ月の中でも委員メンバーと協力し、セレモニーのリハーサルを行えば厳粛なセレモニーを行えたと思うと反省点が残ります。

**２．総評**

１年間数回例会を担当し、例会を重ねるにつれ、ＬＯＭメンバーの絆が深まっていき例会の質が少しずつ上がっていくのを実感し、例会の本質でもあるＬＯＭメンバーの資質の向上につながったのではないかと思います。ですが、目標としていた出席率向上にはよい結果を残せず残念でした。

**３．副理事長（担当常任理事）所見**

入会歴の浅いメンバーが多いＬＯＭの現状に合わせて１年間の例会のテーマを考え、メンバーにとって学びになる例会を企画してくれました。議案の提出もしっかりと対応できていたことも他の委員長の見本になれたと思います。出席率向上という難しい課題に対して大変苦労されたことだと思いますが、少ない委員会メンバーでの運営お疲れ様でした。来年もメンバーとしてＪＣＩひびきを支えてくれることを期待しています。今後の活躍を楽しみにしています。

**４．次年度への引継ぎ事項**

（１）毎月の例会の開催に関する事項

・例会ではメンバーの質の向上につながる大切な事業なので背景、目的が適切なのかを考慮し基本方針に則り構築してください。例会では厳粛なセレモニーが行えるように登壇者とのリハーサル、報告者との打ち合わせを確実に行ってください。ＪＣ宣言の旗や綱領の旗国旗等の使用する備品の位置を会場レイアウトで確認し設営してください。講師を招く際は、講師に望ましい席配置などを確認し当日例会がスムーズに行える様にしてください。例会の電話動員を行う際、クールビズが始まる月と終わる月はネクタイの有無を電話動員の際に伝え、服装の統一を行ってください。

（２）例会の出席率向上に関する事項

・例会ではメンバーの出席率がとても重要になってきます。よい例会を行っても参加者が少ないと組織全体でのレベルアップは難しくなってきます。なので、常にどのような動員を行えば出席率が上がるのかを委員会で考え実践し、例会の出席率向上に努めてください。出席率を上げるために、電話動員を早めに行い数回電話動員を行ってください。また、各委員会へ参加し動員を行ったり直接会って動員することも考慮してください。

（３）シニア合同例会の開催に関する事項

・シニア合同例会ではシニアクラブの先輩方に感謝を伝え交流を深める場でもあり、１年間の中で新入会員の紹介や事業の紹介を行う場でもあります。なので、出席率にこだわり感謝や交流を深めるために適切な事業構築を行ってください。各委員長がメンバーを連れテーブルを回る等を行い先輩方と交流できる場を設けてください。歓談の最中に事業報告等を行う際は、先輩方に注目してもらえる様に工夫を行ってください。シニアクラブへ送るＦＡＸ案内文は返信率が低いため締め切り前に電話で出欠確認を行ってください。会場で

送迎のバスが準備できる場合は、電話動員の際にバスの利用するのか確認を行ってください。

（４）各種大会への参加に関する事項

・各種大会には委員長が率先して参加しなければならないところを参加できず委員メンバーを率いての参加はできませんでした。なので、年間スケジュールを確認し各種大会に参加できるようにし委員メンバーを巻き込み参加できるように心がけてください。

（５）会員拡大に関する事項

・委員会の際、オブザーバーの確認を行いましたが例会委員会メンバーから紹介の新入会員はいませんでした。なので、会員拡大委員会と連携を取り加入しそうな方には会員拡大委員会委員長を交えるなどし、会員拡大できるよう努めてください。

（６）その他例会に関する事項

・その他例会に関する事項では新型コロナウイルス等での日付の変更や会場の変更等も考えられますので対応できるように時期に応じた対策を取ってください。また、例会委員会は設営や議案構築時の見積もり等委員会メンバーの協力が不可欠なので、委員会メンバーを巻き込み人数が少ないと感じた場合は新入会員を割り振ってもらう等検討してください。

**５．実施組織**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 委員長 | 黒川　凌雅 | 福岡ブロック協議会 | 財政局 | 出向 |
| 副委員長 | 山本　祥平 | 福岡ブロック協議会 | 未来創造委員会 | 出向 |
| 委員 | 浅尾　健一郎 | | | |

（委員５０音順）

# 月別事業内容及び決算

（単位：円）

| 月 | 事業内容 | 予算 | 決算 | 事業収入 | 摘要 |
|---|---|---|---|---|---|
| １月 | | | | | |
| ２月 | | | | | |
| ３月 | | | | | |
| ４月 | 4月度例会 | 50,000 | 49,240 | | |
| ５月 | 5月度例会 | 30,000 | 29,570 | | |
| ６月 | | | | | |
| ７月 | 7月度例会 | 30,000 | 26,370 | | |
| ８月 | | | | | |
| ９月 | 9月度例会 | 30,000 | 28,970 | | |
| 10月 | 10月度例会 | 100,000 | 98,540 | | |
| 11月 | 11月度例会 | 30,000 | 26,395 | | |
| 12月 | | | | | |
| 合計 | | ¥270,000 | ¥259,085 | ¥0 | |

| 決算 | 事業予算 | 事業収入 | | 決算 | | 残金 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | （ ¥270,000 ＋ | ¥0 ） － | | ¥259,085 | ＝ | ¥10,915（本会計へ） |

| 備考 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|

# ２０２２年度　アカデミー委員会

**～基本方針～**

現在、全国的にメンバーの減少が進む中、ＪＣＩひびきは会員拡大に成功し、新入会員の割合が増えましたが、コロナ禍の現状も相まってメンバー間の交流も減り、会員育成が追いついていない現状です。この地域の可能性を切り開く個性溢れる多くの新入会員は長きに渡るＪＣの歴史を重んじるとともに、ＪＣ活動、運動の意義を十分に理解した同志として、どんな状況においても率先して行動ができる人財へと成長していく必要があります。

まずは、委員会メンバーのことを理解し参加しやすい環境を構築するために、一人ひとり顔を合わし意見交換することで、委員会メンバーとの信頼関係を築きます。そして、先輩方が築き上げた歴史を次世代に繋げるため、他の委員会の事業に委員会メンバーが積極的に参加し交流することで、委員会の垣根を超える絆とＪＣについての理解を深めます。さらに、ＬＯＭの将来を担う人財へと成長してもらうために、委員会メンバーに役割を与え事業運営し、自覚と責任を育むことで、メンバーの成長の一助とします。また、委員会メンバーが一生の仲間となるために、委員会を通じて互いの理解を深め合い委員会活動への参画意識を高めることで、新たな友情を育みます。そして、さらなる組織力向上のために、歴の長いメンバーと委員会メンバーが話し合える会員交流をすることで、互いの親睦がより深まり、ＪＣＩひびきの活動、運動に参加しやすい環境になります。さらに、委員会メンバーの活動意欲を向上させるために、ＪＣＩ日本公認プログラムを受講しＪＣができた時代背景から現在までの運動を学ぶことで、ＪＣの歴史や活動意義の理解を深めます。

委員会メンバーは１年間の様々な活動をとおし、互いと互いが想いあい絆を深め、ＪＣ活動、運動の中で先輩方から受け継いだ伝統や歴史を学び、一人ひとりが次世代のＬＯＭの核を担うメンバーへと成長し、地域を牽引する人財となり持続可能な地域を実現します。

**１．事業別内容（方法・手段・評価・反省）**

（１）アカデミー事業に関する事項

（方法・手段）

委員会メンバーの活動意欲を向上させるために、ＪＣＩ日本公認プログラムを受講しＪＣができた時代背景から現在までの運動を学ぶことで、ＪＣの歴史や活動意義の理解を深めます。

（評価・反省）

私自身もＪＣＩ公認プログラム（ＶＭＶ）を開催するにあたって、企画段階まで受講したことがなかったため、企画段階で受講し、ＪＣの成り立ちから現在までの歴史を知ることによってＪＣ活動、運動に対する必要性を理解することができたことと、講師の方と新入会員の活動意欲を上げるためにはどうすればいいのかなど、試行錯誤し当日を迎えることができたことが評価できる点です。アンケートの結果から新入会員の活動意欲を向上させられたと確信しています。しかし、一番受講してもらいたかった新入会員の参加率が低か

ったことが反省点です。

（方法・手法）
ＬＯＭの将来を担う人財へと成長してもらうために、委員会メンバーに役割を与え事業運営し、自覚と責任を育むことで、メンバーの成長の一助とします。
（評価・反省）
「なみかけ観光ジョギング in あしや」を開催するにあたって、委員会メンバーと事業の構築段階から、事前準備、事業当日まで参画してもらえたのはメンバーの成長につながったと思うので評価できる点です。しかし、活動に対して消極的な委員会メンバーを参加させられなかったのは反省点です。

（２）新入会員セミナーサポートに関する事項
（方法・手段）
委員会メンバーのことを理解し参加しやすい環境を構築するために、一人ひとり顔を合わし意見交換することで、委員会メンバーとの信頼関係を築きます。
（評価・反省）
委員会メンバーとは定期的に委員会を行うなど、委員会とは別に個別で多くのコミュニケーションを取るように心がけました。そこは評価できる点です。しかし、配属してのすぐのメンバーとの信頼関係の構築がうまくいかず例会、事業、委員会への動員がうまくいかなかったところが反省点です。

（３）例会の設営サポートに関する事項
（方法・手段）
先輩方が築き上げた歴史を次世代に繋げるため、他の委員会の事業に委員会メンバーが積極的に参加し交流することで、委員会の垣根を超える絆とＪＣについての理解を深めます。
（評価・反省）
例会、他の委員会の事業に委員会メンバーが積極的に参加するように促せたことは評価できる点です。しかし、参加率が低かったことが反省点です。もっと毎月の例会の内容事業の内容ともに委員長である私自身が、メンバーに出欠確認の際に説明できていれば出席率が上がったのではないかと感じます。

（４）新入会員サポートに関する事項
（方法・手段）
委員会メンバーが一生の仲間となるために、委員会を通じて互いの理解を深め合い委員会活動への参画意識を高めることで、新たな友情を育みます。
（評価・反省）
委員会を毎月行い、メンバーが参画できるように委員会活動ができたのは評価できる点です。しかし、委員会になかなか参加できずに新たな友情が育めなかったメンバーもい

たのは反省点です。

（方法・手段）
さらなる組織力向上のために、歴の長いメンバーと委員会メンバーが話し合える会員交流をすることで、互いの親睦がより深まり、ＪＣＩひびきの活動、運動に参加しやすい環境になります。
（評価・反省）
委員会メンバーが歴の長いメンバーと触れ合えるように懇親会などで積極的に交流するように促せたことは評価できる点です。しかし、委員メンバー全員を巻き込んでの交流会ができなかったことが反省点です。

（５）出向に関する事項
（方法・手段）
　自身の経験を委員会メンバーに話し、出向するよう促します。
（評価・反省）
自身の経験を話し、メンバーが来年福岡ブロックアカデミーなどに出向したいと思えるように促せたのは評価したい点です。しかし、最初から配属されていたメンバーを福岡ブロックアカデミーなどに出向させられなかったのが反省点です。

（６）各種大会への開催に関する事項
（方法・手段）
自身の経験を委員会メンバーに話し、各種大会への参加を促します。
（評価・反省）
自身の経験をメンバーに話し各種大会に参加するように促せたのは評価できる点です。しかし、もっと多くのメンバーを各種大会に興味を持ってもらえるように話せなかったのが反省点です。

（７）会員拡大に関する事項
（方法・手段）
拡大委員会と連携を取り合い、会員拡大につなげます。
（評価・反省）
積極的にＪＣのことを知らない知人に声をかけ興味を持ってもらおうと取り組んだのは評価できる点です。しかし、会員拡大委員会にオブザーバーとして繋げるまでができなかったのが反省点です。

（８）その他新入会員に関する事項
（方法・手段）
迅速に対応します。

（評価・反省）
新入会員がわからないことを相談役となり不安を少しずつでも解消できる委員会運営ができたことは評価できる点です。しかし、自分も歴が浅いため、回答できない質問などを常任理事や副理事長などに聞き回答をできなかったのが反省点です。

**２．総評**

入会して初めて委員長としての役職をさせてもらいましたが、私自身入会歴が浅く困惑し、不安な一年でしたが、担当副理事長、同委員長に支え励まされやり終えた一年でした。私が担当した当委員会は入会初年度のメンバーで構成され、非常にメンバー一人ひとりと向き合うことが難しいと感じました。しかし、委員会を運営していく中で委員長の私自身が誰よりも委員会メンバーに一番寄り添わないといけなかったと感じさせられました。８月に行った事業の「ＪＣＩ公認プログラム（ＶＭＶ）」では委員会メンバーにＪＣとは？という講演を行ってもらい、ＪＣの歴史から学び、ＪＣ運動、活動の必要性を理解してもらえたと実感しています。さらに、１１月に行ったアカデミー事業の「なみかけ観光ジョギング in あしや」では、８月に学んだことを活かし、実際に事業の構築を当委員会中心となり参画したことでメンバーの成長の一助になったと確信しています。また、前日の準備、事業当日のメンバーの参加率が非常に大切だと改めて感じました。そして、参加者の方からも「楽しかった」「また開催して欲しい」などの声もいただけてメンバー一同ＪＣ運動の魅力を肌で感じることができたと思います。来年度は当委員会から委員長、副委員長を多く輩出できたので嬉しく思います。

**３．副理事長所見**

近年のＪＣＩひびきとしては新たな試みとして新入会員の育成を担うアカデミー委員会を創設しました。年初はメンバーとのコミュニケーションに大変苦労したと思いますが入会者が増える度に持ち前の明るさと行動力でメンバーとの絆を深めていました。アカデミー事業では、議案の提出遅れなど迷惑をかけることも多々ありましたが、最終的にはメンバーを巻き込み企画、準備に一生懸命になっている姿を見て来年以降の活躍も大変期待を感じています。また、次年度の組織に今年のアカデミーメンバーの中から、初の委員長を３人、副委員長を４人も輩出することができたことは本当にすごいことだと思います。来年も２回目の先輩委員長として背中を見せていただきたいと思います。１年間お疲れさまでした。

**４．次年度への引継ぎ事項**

（１）アカデミー事業に関する事項

・新入会員の活動意欲を向上させるため、ＪＣの歴史や活動意義の理解を深め、その学びを体験し落とし込めるような事業を構築してください。

（２）新入会員セミナーサポートに関する事項

・新入会員セミナーまでの間、当委員会メンバーは新入会員で構成されるため、新入会員とのコミュニケーションを取ることはもちろん、不安などを取り除き活動に積極的になってもらう必要があります。そのため新入会員に個々に寄り添いコミュニケーションを取ることで、事業、例会の参加率向上また新入会員の資質向上につなげてください。

（３）例会の設営サポートに関する事項

・新入会員が、例会の設営の段階から参画することで例会を開催する大変さを知り、利他の精神を醸成するきっかけになります。また、動員時は、例会で学び、気づきがあることを知らないため、参加の動員をするだけでは出席率が上がることはありません。そのため動員時に事業の内容をしっかり説明し、参加することでメリットがあるということを伝えて動員をすることで出席率の向上につなげてください。

（４）新入会員サポートに関する事項

・委員会を毎月行いますが電話、ＬＩＮＥなどのＳＮＳを使用した動員だけではなかなか参加が厳しいメンバーもいるので、こまめに連絡を取ることも必要ですがメンバーと直接顔を合わせ参加を促し、メンバー同士の友情を育んでもらうことで活動意欲の向上につなげてください。

（５）出向に関する事項

・委員長が出向を積極的にしなければメンバーに経験を踏まえ伝えることができないため、委員長はできるだけ積極的に出向し、委員会メンバーに出向して自身の成長につながった経験を伝え出向を促してください。

（６）各種大会への開催に関する事項

・各種大会にも委員長が率先し参加し、年間スケジュールを確認し委員会メンバーに日程の調整をしてもらい多くの新入会員を巻き込み参加を促してください。

（７）会員拡大に関する事項

・会員拡大委員会と連携をとり、知人にまずは話を聞いてもらえるように日程を調整し交流を深め会員拡大できるよう努めてください。

（８）その他新入会員に関する事項

・新入会員は、ＪＣのことをよくわかっていないメンバーが多く、不安も多いと思うので、メンバーの不安を取り除く為、たくさんのコミュニケーショを取り、一人ひとりの意見を聞くことで参加率を高めていけるように迅速に対応してください。

**５．実施組織**

| | | |
|---|---|---|
| 委員長 | 金城　一聖 | 福岡ブロック協議会　福岡の力覚醒委員会　出向 |
| 副委員長 | 梶栗　裕太 | |
| 委員 | 石田　翔 | |
| 委員 | 上田　理子 | |
| 委員 | 大庭　崇享 | |
| 委員 | 川島　幸平 | |
| 委員 | 北島　絹恵 | |
| 委員 | 國政　丈記 | |
| 委員 | 黒田　亮 | |
| 委員 | 桑嶋　大地 | |
| 委員 | 佐々木　孝 | |
| 委員 | 三宮　颯人 | |
| 委員 | 田染　智絵 | |
| 委員 | 豊岡　五十鈴 | |
| 委員 | 萩原　優典 | |
| 委員 | 松井　康 | |
| 委員 | 八木　智樹 | |
| 委員 | 山下　真利枝 | |
| 委員 | 吉川　翔太 | |

（５０音順）

# 月別事業内容及び決算

（単位：円）

| 月 | 事業内容 | 予算 | 決算 | 事業収入 | 摘要 |
|---|---|---|---|---|---|
| １月 | | | | | |
| ２月 | | | | | |
| ３月 | | | | | |
| ４月 | | | | | |
| ５月 | | | | | |
| ６月 | | | | | |
| ７月 | | | | | |
| ８月 | ＪＣＩ公認プログラム | 30,000 | 26,614 | | |
| ９月 | | | | | |
| 10月 | | | | | |
| 11月 | アカデミー事業 | 1,450,000 | 1,282,245 | | |
| 12月 | | | | | |
| 合計 | | ¥1,480,000 | ¥1,308,859 | ¥0 | |

| 決算 | 事業予算 | | 事業収入 | | 決算 | | 残金 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | （ ¥1,480,000 | ＋ | ¥0 ） | ― | ¥1,308,859 | ＝ | ¥171,141（本会計へ） |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 備考 | | | | | |

# ２０２２年度　広報委員会

**～基本方針～**

ＪＣＩひびきは昨年５０周年という節目の年を迎えましたが、昨年は２０２０年に発生した新型コロナウイルスの感染拡大による影響もあり、これまで営んできたＪＣ運動や我々の想いが多くの人に認知されていないというのが現状です。従来どおりの手法ではＬＯＭの魅力や活動内容をうまく伝えられていない今、現在の情勢に即した情報発信を実践するとともにＬＯＭの認知度と魅力度を高めるブランディングを行っていく必要があります。

まずは、ＪＣＩひびきの知名度を向上させるため、ＴｗｉｔｔｅｒやＹｏｕＴｕｂｅを利用して対外の方々の関心を惹くような発信をし、ＪＣおよびＪＣＩひびきの存在を周知させます。そして、地域の方々により広く知ってもらうため、地方自治体と連携した広報活動を行い、ＪＣＩひびきの地域に根ざした活動をアピールします。さらに、ＬＯＭの会員拡大につなげるため、ホームページの内容をより充実させることで魅力度を高め、ＪＣＩひびきのブランド力を向上させます。また、メンバー全員のモチベーションを維持するために、メンバーがより一層ＪＣを好きになるような対内誌を作成し、ＪＣＩひびきのブランド力向上とともに、メンバー同士の関係を深めます。そして、卒業メンバーを気持ちよく送り出すために、卒業メンバーの心に残るような卒業例会を設営し、現役メンバーと卒業メンバー間の絆をより強固なものとします。さらに、対外の方々にＪＣ活動の楽しさを知ってもらうため、対外の方々にも積極的に参加してもらえるような公開例会を設営し、ＪＣＩひびきの魅力と価値を伝えることで、ＪＣＩひびきの認知度の向上につなげます。

メンバーは自身が所属するＪＣＩひびきの魅力を改めて知り、一人ひとりがＪＣＩひびきのメンバーとしての誇りをもちＪＣ運動を行う中で、１市４町の方々にＪＣＩひびきの魅力を正しく知ってもらい、ブランディングの成果が上がり持続可能な地域を実現します。

**１．事業別内容（方法・手段・評価・反省）**

(1) ＨＰ・ＳＮＳの作成及び運営・管理に関する事項

（方法・手段）

ＪＣＩひびきの知名度を向上させるため、ＴｗｉｔｔｅｒやＹｏｕＴｕｂｅを利用して対外の方々の関心を惹くような発信をします。

（評価・反省）

本年度は新たにＴｗｉｔｔｅｒとＹｏｕＴｕｂｅを開設し、従来から運用していたＦａｃｅｂｏｏｋとインスタグラムと併せて４つのＳＮＳを運用する体制を構築しました。当初より本当に運用できるのかと危惧されておりましたが、予想通り作業量のキャパシティを超えてしまい、想定していた運用ができませんでした。特にＹｏｕＴｕｂｅに関しては各事業で使用する映像データの置き場所としての活用のみとなった点は大いに反省すべき点だと認識しています。しかしインスタグラムとＴｗｉｔｔｅｒに関しては一定数フォロワーの増加につなげることができた点は評価できると思います。

（方法・手段）
ＬＯＭの会員拡大につなげるため、ホームページの内容をより充実させることで魅力度を高め、ＪＣＩひびきのブランド力を向上させます。
（評価・反省）
本年度はブランド力向上を目的としてホームページをフルリニューアルしました。まずはイメージ刷新のためにトレンドを取り入れたデザインに一新し、非常にかっこよくなったとご好評をいただきました。ＪＣＩひびきのブランド力および好感度向上の一助になったと感じております。また、対内誌をホームページで閲覧できるようにするなど、ペーパーレスの効果も付加することもできました。ホームページで対内誌が閲覧できることは便利だとの声もある一方、閲覧方法がわからないという声もあり、こちらの点については改良の余地があると感じています。

⑵広報活動における地方自治体との連携に関する事項
（方法・手段）
地域の方々により広く知ってもらうため、地方自治体と連携した広報活動を行い、ＪＣＩひびきの地域に根ざした活動をアピールします。
（評価・反省）
従来のＳＮＳに加え新たにＴｗｉｔｔｅｒを開設し、インスタグラムと併せて地域の企業や団体をフォローするなどの活動を行いましたが、うまくＳＮＳを活用できたとはいえず、効果的な連携が取れなかったことは反省すべきだと感じています。それ以外にローカルでの広報活動も行うことができておらず、地域に根ざした活動というには程遠い結果となりました。一方、ＳＮＳで４月度公開事業の告知を行った際には地域の方と直接ＤＭでやりとりをすることができたことはよかったと思います。

⑶広報活動の企画・実施に関する事項
（方法・手段）
ＪＣＩひびきの知名度と認知度上昇のためのブランディングを行います。
（評価・反省）
ホームページだけでなく名刺とネームプレートもブランディングのためにデザインを統一しました。これらに関しても非常にご好評をいただき、ブランド力向上の一助になったと感じております。しかし、ネームプレートに関しては可視範囲をはみ出してデザインしてしまい、ネームプレートに入れた際に一部が隠れてしまう状態になってしまった点は残念です。

⑷対内誌作成及び運営に関する事項
（方法・手段）
メンバー全員のモチベーションを維持するために、メンバーがより一層ＪＣを好きになるような対内誌を作成し、ＪＣＩひびきのブランド力向上とともに、メンバー同士の関

係を深めます。
（評価・反省）
対内誌に関してはデザインがかっこいいという声をいただいています。また、今年度の取り組みとして、理事長や委員長のインタビュー記事を掲載し、こちらもおもしろいとご好評をいただいております。一方でインタビュー記事にページ数を多く割いてしまい、肝心の活動報告の内容が薄くなったとシニアの先輩からご意見があったと聞き及んでおります。内容の配分について一考の余地があると感じます。また、途中からインタビュー記事を掲載できなくなり、公平性に欠けてしまった点は反省しています。

⑸公開例会の開催に関する事項
（方法・手段）
対外の方々にＪＣ活動の楽しさを知ってもらうため、対外の方々にも積極的に参加してもらえるような公開例会を設営し、ＪＣＩひびきの魅力と価値を伝えることで、ＪＣＩひびきの認知度の向上につなげます。
（評価・反省）
今までにない試みとしてオンラインでのｅスポーツを取り入れた事業を開催しました。ぜひ今後も続けてほしいとご好評をいただき、ＪＣ活動の楽しさが伝えられたと思います。一方でＳＮＳを利用した広報計画を立てておりましたが、ＳＮＳの運用が有効にできておらず、認知度の向上には寄与できなかったことは反省すべき点です。

⑹卒業例会の開催に関する事項
（方法・手段）
卒業メンバーを気持ちよく送り出すために、卒業メンバーの心に残るような卒業例会を設営し、現役メンバーと卒業メンバー間の絆をより強固なものとします。
（評価・反省）
卒業生に感謝を伝え、感動していただけるように記念品やムービーを設え、卒業生からは「すごく良かった、感動した」とのお声をいただいたので目的は果たせたと思います。一方で、記念品額楯の手配が遅れて当日間に合わなかったり、マトリクスやパワポ資料がなかったりと設営に関しては不備が多く、設営メンバーや登壇者の方にご迷惑をかけてしまう結果となりました。

⑺出向に関する事項
（方法・手段）
私自身の経験を伝え、メンバーの出向を促します。
（評価・反省）
委員会メンバーのみならずオブザーバーや新入会員には積極的にＪＣ活動の楽しさや意義を伝えてきましたので、メンバーのモチベーションや出向意欲の向上に寄与できたと思います。一方で私自身が仕事や議案作成等で忙殺され、委員会メンバーや新入会員により

添えない時もあったことは反省しています。

⑻各種大会への参加に関する事項
（方法・手段）
私自身が積極的に各種大会に参加し、その経験をメンバーに話し、メンバーの参加意欲を高めます。
（評価・反省）
全ての大会に参加はできませんでしたが、行けるものには積極的に参加し、委員会メンバーに経験を伝えることができました。実際に委員会メンバーも大会に参加してくれたのは非常に有意義なことだと考えます。一方で全員を巻き込むことはできなかったため、その点は今後の課題となります。

⑼会員拡大に関する事項
（方法・手段）
会員拡大委員会と連携し、効果的な拡大パンフレットを作成します。
（評価・反省）
キャッチーなデザインを取り入れ、オブザーバーの方の興味を引くようなパンフレットが作成できたと思います。一方で今年度の新入会員が入会したきっかけとして拡大パンフレットが占める割合等のデータがないため、新入会員に拡大パンフレットの印象に関するアンケートを取るなどの検証を行い、効果について確認した方がよかったと反省しております。

⑽その他広報に関する事項
（方法・手段）
迅速に対応します。
（評価・反省）
地道な活動によりＳＮＳのフォロワーは一定数増加することができましたが、一部の事業告知についてはスピーディーに対応できなかったものもあり、その点については残念な結果となりました。

**２．総評**

ＪＣＩひびきのイメージ向上、ブランド力強化のためにホームページのリニューアルや名刺、ネームプレート、対内誌のデザインなど、本業のスキルを生かして貢献できたと思います。対内誌に関しては新たな試みとして理事長や委員長のインタビュー記事の掲載、そしてホームページでの公開という実験的な試みを行い、課題はありましたが肯定的な意見をいただくことができました。しかし、初めての理事、そして広報委員長ということで気負いすぎたせいか基本方針にやりたいことを詰め込みすぎてキャパシティを超えてしまい、インタビューの継続やＳＮＳの定期的な運用ができなかったのは悔やまれます。理事長か

らも「世界一いいものを作っても、誰にも知られなければ意味がない」という言葉を度々いただきましたが、私もそのとおりだと思います。６月の公開事業に関してもメンバーと参加者の動員がうまくいきませんでしたが、事業の内容としてはいいものができたと思っています。卒業例会に関しても記念品の手配が遅れる等の不備はありましたが、卒業生の３名からは「すごく良かった」という言葉をいただけましたので、気持ちよく送り出せたと思います。

**３．副理事長所見**

早田委員長はＪＣＩひびきを広報するという命題を持って一年間活動されました。広報委員会という近年設けられていなかった委員会において、ご自身のＰＣスキルや職業柄からのアドバンテージを活かして活動頂いたことはＪＣＩひびきの広報部門にとって大きな前進になったと思います。新しい部門ということもあり、ホームページのリニューアル・Ｔｗｉｔｔｅｒの開設・Ｉｎｓｔａｇｒａｍの活用・ＹｏｕＴｕｂｅの活用など多岐にわたるＳＮＳ利用を計画してくださいました。理事会では更新頻度や掲載内容について言及されることがあり、委員会のキャパシティを超えてしまう場面も見受けられました。委員長自身もかなり苦戦されていると述べられるシーンがあり、広報分野の難しさを提示することになったと思います。また、公開事業の設営においてはｅスポーツを取り入れたＪＣＩひびきにとって初めての試みに挑戦してくださいました。設営・動員に苦労する場面も見受けられましたが、今後のＪＣＩひびきにとって様々な意味で勉強となる事業であったと思います。卒業例会においては卒業生を必ず感動させたいという想いの中で工夫を凝らしながら設営をしていただきました。当日の卒業生はお三方とも感動していただける内容となっており、委員長の想いは果たされたと確信しております。早田委員長は筆頭委員長ということもあり、他委員会のメンバーへ様々なアドバイスをされておりました。それらはＰＣスキルだけではなく、理事会では積極的に意見・質問を行い、会全体へ良い影響を与えたと確信しております。コロナ禍である状態からスタートしたこともあり、ＳＮＳを上手く活用して活動していく指針としていた反動から地道な広報活動や細かい動員・依頼連絡漏れなどが見受けられましたが、これらは来期以降の課題としていただければと思います。基本方針にて掲げられたＪＣＩひびきのブランディングという困難な課題について、足がかりとなる一歩を築いていただけたと確信するとともに来期以降の大きな飛躍に期待をしております。

４．次年度への引継ぎ事項

⑴ＨＰ・ＳＮＳの作成及び運営・管理に関する事項

・本来ホームページ運営、ＳＮＳ運用は専属の担当者が行うべき内容と作業量があります。次年度は担当を決め、実行できる内容だけを素早く確実に実行できるように運用方法を見直してください。特に２０２２年度新たに開設したＴｗｉｔｔｅｒに関してはしっかりと運用し、より多くのフォロワーを獲得することで、会員拡大につなげるように努めてください。また、トップページのインフォメーション部分の更新が止まっていると活

動していないと誤解されかねませんので、活動報告がすぐにできなくてもインフォメーションの更新だけは先に行うようにしてください。そして、活動報告や事業告知、対内誌がどれだけ見られているか確認するために、ホームページの閲覧数が確認できるように対応をお願いします。

⑵広報活動における地方自治体との連携に関する事項
・ＳＮＳでは地方自治体や各種団体をフォロー、いいね等を通じて交流し、対外事業の際に動員につながるような広報活動を心がけてください。また、地元のメディアとコンタクトを取り、各種活動の取材依頼を行うことも検討してみてください。

⑶広報活動の企画・実施に関する事項
・ＳＮＳではスピーディーな運用を心がけ、理事から依頼があった際には柔軟に対応してください。特に事業告知や活動報告に関しては可能な限りリアルタイムに、遅くとも次の日までには投稿を行うようにしてください。

⑷対内誌作成及び運営に関する事項
・本年度は理事長や委員長のインタビュー企画を行いましたが、掲載メンバーに偏りが出てしまいました。同様の企画を行う場合は公正性を保つようにお願いします。

⑸公開例会の開催に関する事項
・準備不足や機材のトラブルにより進行や設営が滞る場面が多々ありました。公開例会や公開事業は対外の方々も参加しますので、備品リストの洗い出しやシミュレーション、リハーサルや予算組をしっかりと行ってください。

⑹卒業例会の開催に関する事項
・運営面では記念品の手配忘れ、備品の不足、マトリクスや各種資料の不足など多くの不備が見られました。審議可決後には議案をもう一度確認し、当日までのやることをリストアップして不備がないようにしてください。

⑺その他広報に関する事項
・２０２２年度は委員会メンバーの電話番号を誤って登録しており、約一年に渡り動員ができず大変迷惑をかけてしまいました。そのようなことは通常ありえないことですが、必ず自分の目で手帳を確認して全員の連絡先と名前を把握しておいてください。また、いかなる理由であってもやむを得ず手法の内容を変更する場合は必ず担当と話し合い、自分の判断で行わないようにしてください。

**５．実施組織**

| | | |
|---|---|---|
| 委員長 | 早田　幸平 | 福岡ブロック　未来創造委員会　出向 |
| 副委員長 | 米村　恵義 | |
| 委員 | 大場　嵩士 | |
| 委員 | 山下　真利枝 | |

（委員５０音順）

# 月別事業内容及び決算

（単位：円）

| 月 | 事業内容 | 予算 | 決算 | 事業収入 | 摘要 |
|---|---|---|---|---|---|
| １月 | | 76,230 | 76,230 | | ■拡大パンフレット印刷代（150部）<br>¥53,955<br>■ネームプレート印刷代（90部）<br>¥22,275 |
| ２月 | | | | | |
| ３月 | | 42,042 | | | |
| ４月 | | | | | |
| ５月 | | | | | |
| ６月 | 公開事業 | 242,042 | 197,836 | | ■公開事業設営<br>¥197,836 |
| ７月 | | | | | |
| ８月 | | | | | |
| ９月 | | 42,042 | | | |
| 10月 | | | | | |
| 11月 | | | 84,194 | | ■対内誌780部（130×6ヶ月分）<br>¥84,084+手数料¥110 |
| 12月 | 12月度例会卒業式 | 207,342 | 221,321 | | ■卒業例会設営<br>¥136,225<br>■対内誌520部（130×4ヶ月分）<br>¥56,056+手数料¥110<br>■アルバム代　¥28,600+手数料¥330 |
| 合計 | | ¥609,698 | ¥579,581 | ¥0 | |

| 決算 | 事業予算 | 事業収入 | | 決算 | | 残金 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | （　¥609,698 ＋ | ¥0 ） | － | ¥579,581 | ＝ | ¥30,117（本会計へ） |

| 備考 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|

# ２０２２年度　会員拡大委員会

**～基本方針～**

２０２０年に起きた新型コロナウイルス感染症によるパンデミックのため会員拡大活動は制限を余儀なくされている場面が増えていますがＪＣＩひびきでは近年会員数を大きく伸ばすことに成功しており現在７０名に迫る会員数となっています。ＪＣＩひびきの運動力を大きくするには、さらに多くの同志がＪＣＩひびきに集うようこれまでの手法だけでなく新しい時代に即した会員拡大手法を模索し会員拡大の能力増強を図る必要があります。

まずは、コロナ禍によってＪＣ活動が困難な中でも、会員人数を多く増やすために通常時の拡大活動の手法に加えて、ＷＥＢやＳＮＳを活用した非接触型の交流を行うことで、今の時代に合った新たな拡大の手法とつながります。そして、ＪＣＩひびきを魅力ある人財があふれる団体にするために、新入会員セミナー時に、新入会員が理解しやすい言葉や、説明を含んだセミナー内容を構築することで、新入会員がＪＣＩひびきにより早く馴染んでいただくことになります。さらにＪＣの魅力を対外の方々に知っていただくためにＪＣのメリットやＪＣ運動の意義などがわかりやすく伝わる拡大事業を開催することで、ＪＣに興味を持ち、入会を検討する方々を増やすことができます。また、ＪＣＩひびきに所属するすべてのメンバーで会員拡大に取り組むために、定期的に拡大戦略会議を開催して、現状の把握と今後の対策を全員で共有することで会員拡大に対する意識の向上を図ることとなります。そして、卒業パーティーでは卒業生と現役メンバーが一丸となり、２０２２年度のＪＣＩひびきの振り返りを行うことで、感動的な設えを実施することができます。

会員拡大の重要性をＪＣＩひびきのメンバー全体へと浸透させることに成功し、発展途上にある現在のＬＯＭが次なるステージへの一歩を踏み出し、ＪＣＩひびきの運動は１市４町を巻き込むことのできる運動へと成長することとなり、持続可能な地域を実現します。

**１．事業別内容（方法・手段・評価・反省）**

（１）新入会員の拡大と入会に関する事項

（方法・手段）

コロナ禍によってＪＣ活動が困難な中でも、会員人数を多く増やすために通常時の拡大活動の手法に加えて、ＷＥＢやＳＮＳを活用した非接触型の交流を行うことで、今の時代に合った新たな拡大の手法とつながります。

（評価・反省）

ＷＥＢやＳＮＳを活用した非接触型の交流はＺＯＯＭなどを利用して接触をするなどの手法を採用しました。ＳＮＳを主軸とした交流はできませんでしたが、会食をするなど対面式でオブザーバーと接触ができた点は評価したいと思います。しかしＷＥＢやＳＮＳの非接触型の交流を行えばさらに、会員拡大の結果へとつながり新入会員が入会していたと思いますので、これらが反省点です。

（２）新入会員セミナーに関する事項
（方法・手段）
ＪＣＩひびきを魅力ある人財があふれる団体にするために、新入会員セミナー時に、新入会員が理解しやすい言葉や、説明を含んだセミナー内容を構築することで、新入会員がＪＣＩひびきにより早く馴染んでいただくことになります。
（評価・反省）
新入会員セミナーの開催は２度行いました。スムーズに開催することができ、無事に新入会員メンバーが各委員会に配属されたので評価したいと思います。しかし、式次第がなくセレモニーや委員長挨拶が滞り、説明資料にも誤字・脱字がありリハーサルもしていない点が反省点です。

（３）会員拡大事業の開催に関する事項
（方法・手段）
ＪＣの魅力を対外の方々に知っていただくためにＪＣのメリットやＪＣ運動の意義などがわかりやすく伝わる拡大事業を開催することで、ＪＣに興味を持ち、入会を検討する方々を増やすことができます。
（評価・反省）
当初、２月に予定をしておりました会員拡大事業ですが、講師に上田博和先輩をお招きして開催する予定で事業計画を行いました。しかし、コロナ禍の感染拡大に伴い、延期を余儀なくされております。延期後はＪＣＩひびきの先輩である藤木先輩を１１月にお招きし開催ができました。アンケートの結果８９％が大変理解した・理解したとアンケートが取れましたので拡大意識は持てたかと思いますのでその点は評価したいと思います。しかし講師へのおもてなし、横断幕がはがれ落ちる、講師控室の電灯が付いていない、飲み物が用意されていない、理事長からの挨拶文がないなど問題が多数ありましたのでこれらが反省点です。

（４）会員拡大戦略会議の開催に関する事項
（方法・手段）
ＪＣＩひびきに所属するすべてのメンバーで会員拡大に取り組むために、定期的に拡大戦略会議を開催し、現状の把握と今後の対策を全員で共有することで、会員拡大に対する意識の向上を図ることとなります。
（評価・反省）
１月・２月は活動中止となったため、開催できませんでしたが、３月からは戦略会議を行いました。その際には各委員会からオブザーバーを紹介してもらい、実際の会員拡大に大いに助力となりました。また、各メンバーに向けて、会員拡大に対する意識を高めることができました。会員拡大は１人の力では達成できませんが各メンバーからの協力のおかげで「全員で拡大」という意識付けをすることができましたので、その点を評価したいと思います。しかし、自分自身が気を緩めてしまった月もあり、戦略会議を実施できなかった

月がありました。毎月開催できなかったので反省点です。

（５）卒業パーティーの開催に関する事項
（方法・手段）
卒業パーティーでは卒業生と現役メンバーが一丸となり、２０２２年度のＪＣＩひびきの苦楽の振り返りを行うことで、感動的な設えを実施することができます。
（評価・反省）
ＪＣＩひびき、今年最後のプログラムを担当いたしました。評価といたしましては基本方針に伴い方法・手段通り達成したと思います。また当日になり登壇をしていただく現役メンバー、シニアメンバーの欠席がありましたがメンバー全員が一丸となり対応していただいたのでその点も評価します。１人の力では事業はできないとあらためて感じました。反省点としては現役メンバー、シニアメンバーの方々が座る際席次表がなかったことが反省点です。

（６）出向に関する事項
（方法・手段）
委員会メンバーの向上心を上げるため私が行動を起こし、拡大につながるＪＣの魅力を発信していきます。
（評価・反省）
２０２２年度は地域活性グループのブロック大会運営委員会に出向しました。その際には事業内で駐車場案内の担当を任せていただきました。裏方の職務も大変であると痛感いたしました。出向をしたことで大変良い経験にもなりました。他ＬＯＭメンバーとも情報共有や交友関係を構築することができました。これらのことを評価したいと思います。しかし、私の社業での業務、その他急用などもあり全ての事業には参加できなかったことが反省点です。

（７）各種大会への参加に関する事項
（方法・手段）
積極的に各種大会に参加をし、その思いをメンバー達に発信し参加をよびかけます。
（評価・反省）
サマーコンファレンス、九州コンファレンスは参加できました。フォーラムも４回受講することができＪＣに対する理解が大変深まったと思います。それらの点を評価したいと思います。しかし、メンバーに参加を呼びかけても欠席が多かったことは、私の説明不足だと思います。メンバーを巻き込めなかったこと、また参加人数が少人数だったことなど反省点です。

（８）その他会員拡大に関する事項
（方法・手段）

迅速に対応いたします。

（評価・反省）

福岡ブロック会員拡大委員会のグループＬＩＮＥでの情報共有ができました。他ＬＯＭの拡大人数の多さに刺激をもらい自分自身の向上心が高まりましたので評価したいと思います。しかし、今年度の目標人数である２０名に達成しなかったことが反省点です。

**２．総評**

初めての委員長を経験し１年４ヶ月、最も忙しいＪＣ活動でしたが自身のスキルアップに繋がりました。そのなかでも会員拡大委員長はコミュニケーション能力を高めてオブザーバーと対話していかないといけないので苦労しました。また、拡大予定者数は２０人には達成出来ませんでしたが１１月の拡大事業で半数以上のメンバーが拡大の大切さを理解致しましたので次年度の拡大には繋がっていくと思います。そして最後の事業、卒業パーティーの設営を拡大委員会が受け持ちメンバー、シニアの方々も大変喜んでいただけました。プラス評価としては期日までに議案を提出したこと、次年度、新入会員の方々が３人委員長予定者であることを評価したいと思います。マイナス評価としては拡大事業の時に講師へのおもてなしができていなかった。新入会員セミナー時、セレモニーを行っていない。

**３．副理事長所見**

盛田委員長は２０２２年度に初の理事に選任され、会員拡大という本ＬＯＭにとって大きな命題となっている項目を担当されることとなりました。今年度、盛田委員長は与えられた職掌を見事にやり遂げたと考えております。まず、各種議案の提出については期限に遅れることなく計画を立てて実行されました。日々のＪＣ活動、ＬＯＭ活動にも精力的に活動されている姿には感嘆を覚えております。また、委員会活動についてもメンバーを巻き込みながら活動されている姿、新入会員メンバーへの気配りを行っている姿など、入会歴が短いにもかからず、２０２２年度のＪＣＩひびきに大変貢献されたと思います。家族交流会事業についてはコロナウイルス感染症の拡大という難しい状況を前に開催ができないといった苦難にも見舞われましたが、盛田委員長を筆頭に委員会が一丸となってモチベーションを下げることなく会員拡大という目標に向かって動いている様子を幾度も確認することができました。１１月にはコロナウイルス感染症拡大のよって開催を幾度も延期としていた会員拡大事業を開催し、参加したＬＯＭメンバーのモチベーション向上に寄与する姿も素晴らしかったと思います。卒業パーティーでは２０２２年度の成功をお祝いしたいという強い想いを感じさせる取り組み方を行っており、ミスが起こらないよう事前に幾度も確認の連絡などを頂きました。また、１年間の理事としての動きに伴って、社会人としてあるべき姿という観点からご本人も成長できたというお言葉がありましたので、成長につながる１年間だったのではないかと思います。来期以降、出向など含め大きな飛躍を予感させる動きをされております。盛田委員長が今後のＪＣＩひびきの成長に欠かせない人財となったことを担当理事としても嬉しく思います。基本方針に掲げていた次なるステージへの一歩を踏み出したのではないかと評価いたします。

**４．次年度への引継ぎ事項**

（１）新入会員の拡大と入会に関する事項

・入会に関して、オブザーバーに対して入会案内は大変重要な項目であって入会費と年会費、退会するタイミングなど大変重要な事項であると痛感しました。そして、例会出席の意義や義務を説明することも重要です。新入会員の拡大についてはコロナ禍の中、マスクをするなど感染対策を意識して、コミュニケーションを取り委員会を開催しましたので次年度も引き続きパンフレットなどを活用してＪＣＩひびきの魅力を伝え、会員拡大につなげてください。

（２）新入会員セミナーに関する事項

・２０２２年度は新入会員セミナーを２回開催し委員会配属先を決めました。次年度からはＪＣＩ公認プログラムの講師（ヘッドトレーナー）を呼び、新入会員セミナーを交えて開催し委員会配属を行うのも良いと思います。

（３）会員拡大事業の開催に関する事項

・２０２２年度はコロナ禍により拡大事業が１回目の延期、２回目の延期、３回目で開催ができました。事前準備ができていなかったのでシナリオにセレモニー、講師へのおもてなしを記載してください。

（４）会員拡大戦略会議の開催に関する事項

・戦略会議については月１回、各委員会に参加しオブザーバーを紹介してもらい、ＪＣの魅力を根気強く伝えていき、アタックすることができれば良いと思います。また、新入会員からのオブザーバー紹介も良いと思います。

（５）卒業パーティーの開催に関する事項

次年度の卒業パーティーは備忘録に目録贈呈・席次表の記載をお願い致します。また、事務員さんも受付が終わり次第、一緒に食事をさせてください。

（６）出向に関する事項

・ＪＣＩひびきの運動とは別に、福岡ブロック、九州地区、様々な出向先がありますのでこちらに関しての動きも委員長を主軸にアンテナを張ってください。新入会員の方々は３年未満に福岡ブロックアカデミーに出向してもらいたいので事業に参加するということ自体が出向者へのフォローにつながるということを理解し、可能な限り日程調整などを行い、委員メンバーも巻き込みながらアカデミーに関する動きに参加してください。また日本青年会議所にもフロアメンバーとして出向されますと、自分自身が知らない世界が見え、仲間も増えます。自己成長ができるチャンスのある場所ですので出向し、参加してください。

（７）各種大会への参加に関する事項

・２０２２年度はコロナ禍により、京都会議には参加できませんでした。しかし、サマーコンファレンスには参加することができました。様々なフォーラム（事業）が開催されましたので、これらに参加することでＪＣ活動の意義を理解する事ができました。これらに参加して見たことや聞いたことをＪＣＩひびきに持ち帰りＬＯＭメンバーに情報共有してください。

（８）その他会員拡大に関する事項

・会員拡大委員会委員長になると、福岡ブロック２２ＬＯＭの会員拡大委員長と様々なつながりを持つことができます。会員拡大の手法を共有し合い、情報交換などまめに行いＪＣＩひびきの新入会員拡大につなげればと思います。

**５．実施組織**

| | | |
|---|---|---|
| 委員長 | 盛田　総平 | 出向先　ブロック大会運営委員会 |
| 副委員長 | 上野　紘一 | |
| 委員 | 小川　陽平 | |
| 委員 | 豊岡　五十鈴 | |
| 委員 | 萩原　優典 | |
| 委員 | 三宅　ゆかり | |

（委員５０音順）

# 月別事業内容及び決算

（単位：円）

| 月 | 事業内容 | 予算 | 決算 | 事業収入 | 摘要 |
|---|---|---|---|---|---|
| １月 | | | | | |
| ２月 | | | | | |
| ３月 | | | | | |
| ４月 | | | | | |
| ５月 | | | | | |
| ６月 | | | | | |
| ７月 | | | | | |
| ８月 | | | | | |
| ９月 | | | | | |
| 10月 | | | | | |
| 11月 | 拡大事業 | 50,000 | 35,765 | | |
| 12月 | 卒業パーティー | 100,000 | 77,476 | | |
| 合計 | | ¥150,000 | ¥113,241 | ¥0 | |
| 決算 | 事業予算　事業収入　決算　残金<br>（ ¥150,000 ＋ ¥0 ） － ¥113,241 ＝ ¥36,759（本会計へ） | | | | |
| 備考 | | | | | |